秋田県文化財調査報告書第64集

宮の前遺跡

発掘調査報告—1979・3—

化財センター

秋田県教育委員会

序

宮の前遺跡の発掘調査は、昭和51年度に実施した範囲確認調査をもとに、昭和53年度中に圃場整備を実施する区域の記録保存を目的として緊急発掘調査を実施したものです。

宮の前遺跡は平安時代の遺跡であり、稲川地区の歴史解明の貴重な資料として活用いただければ幸いです。

調査にあたっては、県農政部、稲川町教育委員会をはじめ、調査に直接参加してくださいました県南高校考古学研究会（湯沢高、湯沢北高、増田高）の皆様に厚くお礼申し上げます。

昭和54年３月

秋田県教育委員会

教育長　畠　山　芳　郎

例　　言

1．本報告は、秋田県雄勝郡稲川町八面に所在する宮の前遺跡の発掘調査報告である。
昭和53年度の国庫補助を得て、実施された。

2．発掘調査は、昭和53年６月５日から６月28日まで行った。

3．調査主体者は、秋田県教育委員会である。

4．調査担当者　庄内昭男

5．調査参加者

調査補助員　山田貞吉

調査協力者　富樫泰時、池田憲和、畠山憲司、柴田陽一郎、橋本高史、栗沢光男
平野芳昭、鈴木俊男、高橋有秀
県南高校考古学研究会（県立増田高校、県立湯沢高校、県立湯沢北高校）

地元協力者　片桐清三、木村養作、片桐礼治、藤原善三郎、沓沢周三、木村行弥
木村永吉、片桐孝子、木村ミヨ、木村トモ子、樋渡京子、近野エミ子
木村シュン子、木村ユリ子、柴田エミ子、佐藤イツ

整理作業協力者　佐藤正俊、庄内公子、小林克

6．調査協力機関　稲川町教育委員会

7．本報告は庄内昭男が執筆し、編集を行った。

8．遺構・遺物について

遺構は、発掘調査時に土坑をSK、溝をSDと仮称記号をつけ、それに発見順に番号をつけていった。Ⅰ地区ではSK001から、SK 052までの記号番号のうち、SK002、SK006、SK012、SK016、SK018、SK036、SK041、SK043、SK047が欠番となった。本報告書では編集の都合上、発見時の仮称に順じて、新たに遺構名を第１～42号土坑と名付けた。Ⅱ地区の遺溝については、発見順の番号で編集した。実測については、Ⅰ地区では遣り方測量で$\frac{1}{20}$で計測し、Ⅱ地区では簡易な遣り方を遺構毎に組み、$\frac{1}{10}$で計測した。本報告書の遺構実測図は、任意の縮尺となっており、スケールを付している。

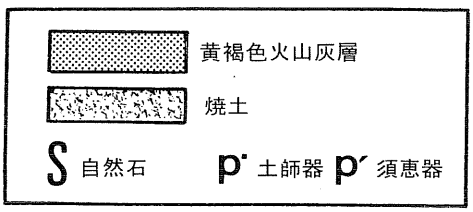
土色の記載は、『標準土色帖』農林省農林水産技術会議事務局監修を参考にした。

遺構に付した矢印の方向は、すべて磁北である。

報告書中の出土遺物の実測図は、土器・石製品を$\frac{1}{3}$に、石器を$\frac{1}{2}$に縮尺した。なお土器は、残存の割合に応じて、口縁部が$\frac{1}{2}$未満から$\frac{1}{4}$以上残るものは、中軸線付近の両側を一部、$\frac{1}{4}$未満から$\frac{1}{8}$以上残るものは、中軸線の両側$\frac{1}{2}$のところで一部を空白にした。

9．遺構及び出土遺物の写真撮影は、庄内昭男が行った。報告書中の遺物写真は、任意の大きさであり、番号は実測図と合せた。

＝遺構＝　凡　例



目　　次

Ⅰ　遺跡の立地と環境 …… 1頁

Ⅱ　調　査　概　要 …… 2頁

1　調査に至る経過

2　調査方法

3　発掘調査の経過

Ⅲ　検出された遺構 …… 4頁

Ⅰ地区　検出遺構

Ⅱ地区　検出遺構

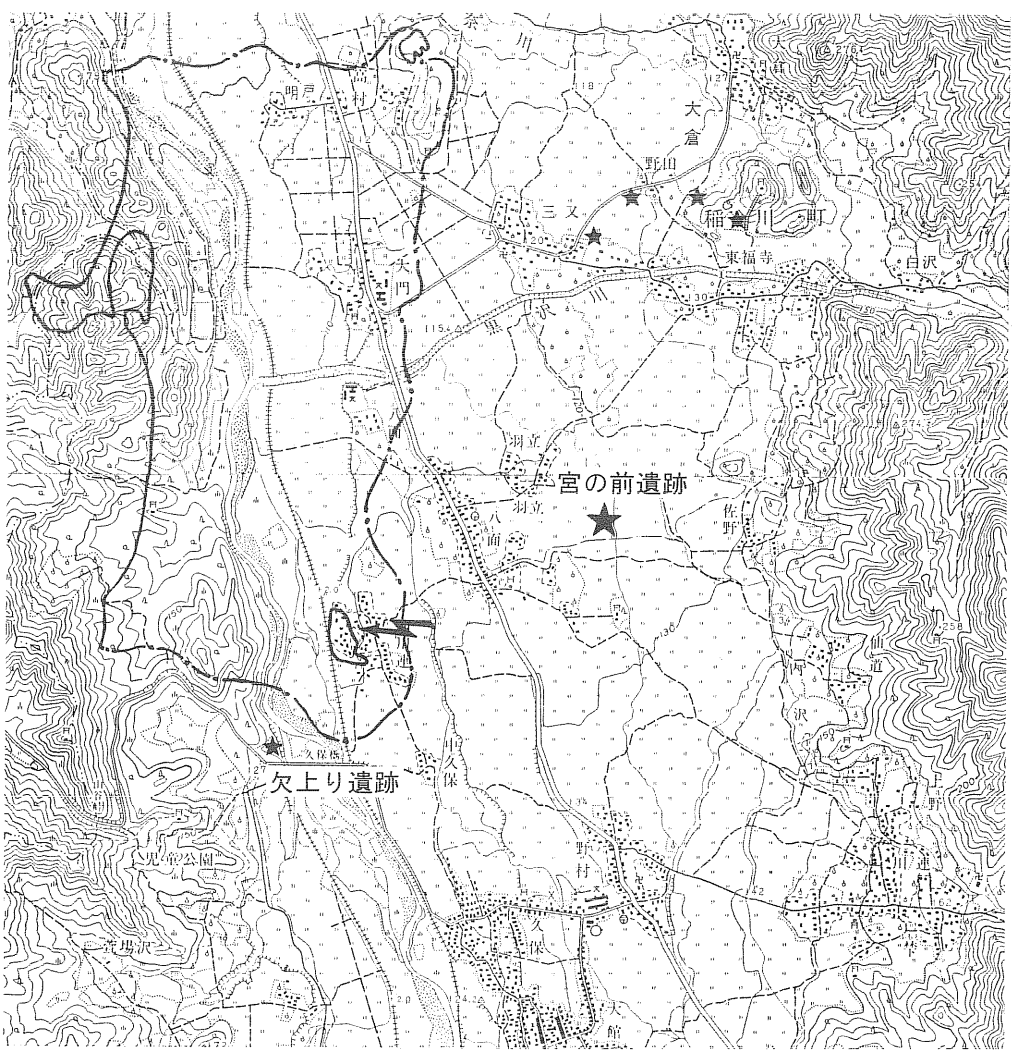
Ⅳ　出土遺物について …… 26頁

Ⅴ　ま　と　め …… 32頁

Ⅰ　遺跡の立地と環境

遺跡の位置：秋田県雄勝郡稲川町八面字宮の前65の１に所在している。稲川町内を北流する皆瀬川流域では、東側に平野部が形成され、広い水田地帯となっている。宮の前遺跡は、河岸から東に1.5*km*の山際近くに位置している。水田地帯の中に南北に細長くのびる微高地上に立地しており、畑地として利用されていた。水田面との比高は１～２*m*で標高123*m*前後である。付近の羽立部落からは水田面が一段丘目に、さらにその上の第二段丘目に遺跡が遠望できる。なおその微高地の東側に沿って七右衛門堰が北流している。

周辺遺跡：稲川町内では、古代の遺跡としては宮の前遺跡以外に衆知されていないが、縄文時代の遺跡が30ヶ所程知られており、宮の前遺跡に近い所では東福寺地区に４ヶ所あり、皆瀬川の対岸には縄文時代前・中期の遺跡で欠上り遺跡がある。



第１図　周辺地形図　二万五千分の一

Ⅱ 調 査 概 要

1．調査に至る経過

宮の前遺跡は、地元の日野賢逸氏によって発見され、昭和50年６月には一部に予備調査を行い、焼土をともなう土坑を検出している。この遺跡の所在する畑地は、周辺の水田面から１～２ｍ程高い微高地であり、幅50ｍで南北に200ｍの広さをもっている。昭和51年夏には、稲川町教育委員会が主体となって、遺跡の範囲確認調査を行っている。稲川地区内では、昭和47年以来県営圃場整備事業が進められており、宮の前遺跡周辺も昭和53年春には計画区域に組み込まれた。昭和51年度の範囲確認調査で得られた内容をもとに、昭和53年６月に遺跡の記録保存のため、発掘調査を実施することになった。発掘調査の予定期間は、昭和53年６月５日から６月25日までであった。調査は６月28日まで延長して行い、調査終了直後に工事で破壊された。

2．調査の方法

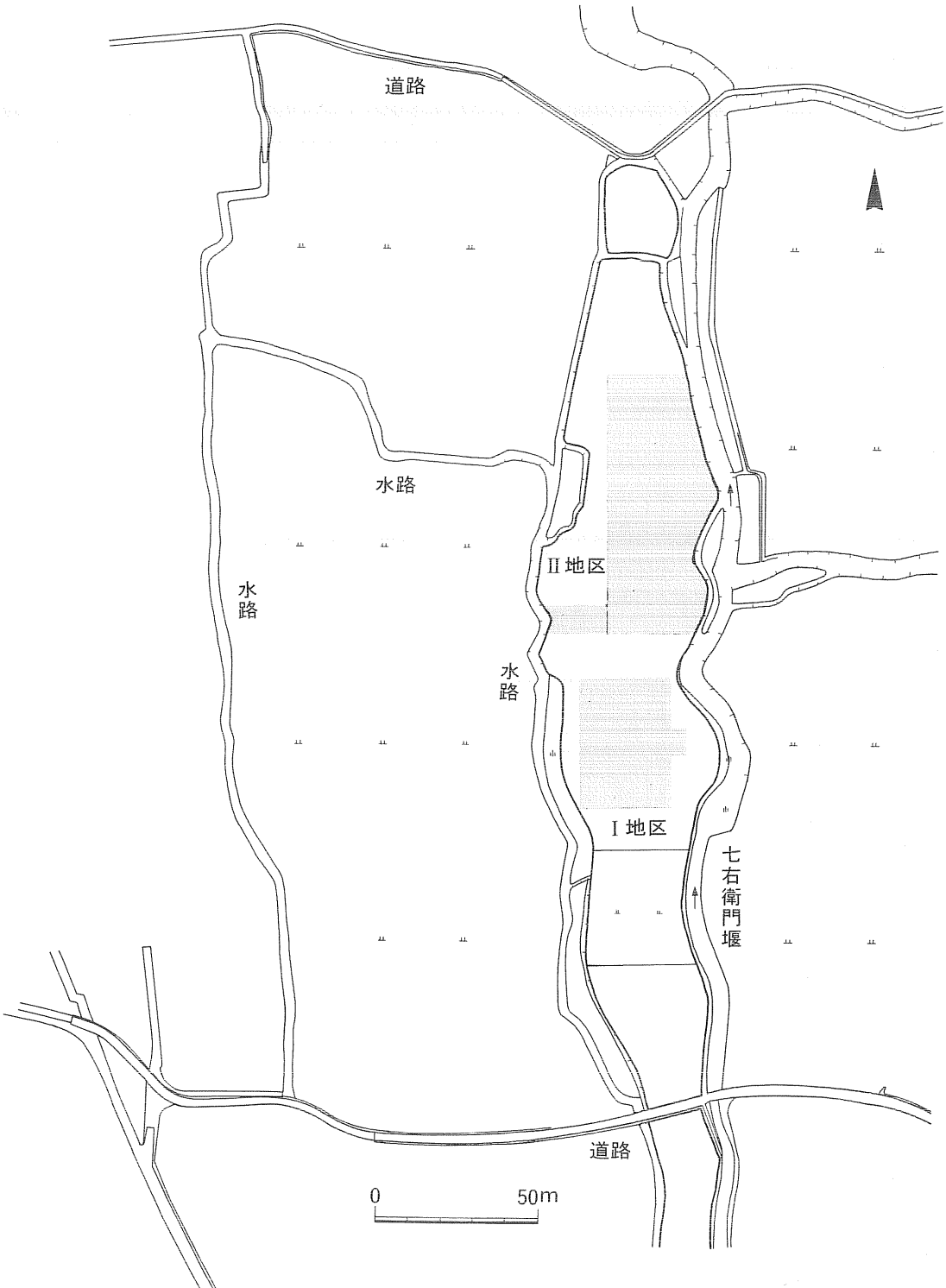
昭和51年度の範囲確認調査では、南北に長い地形を考慮し、台地の南側に切り込んで作った水田際からＹ軸を磁北に沿ってとり、４ｍ毎に区切り、１．２．３……の算用数字を付した。Ｘ軸はそれに直交するように４ｍ毎にＡ・Ｂ・Ｃ……のアルファベットを付した。グリッドは４ｍ×４ｍを１区画とし、南東隅の杭でグリッド名を呼称した。今回の調査でも、前の調査に順じてグリッドを設定したが、Ｇ14で北側に40cm、東側に40cmのずれができた。なお、Ｙ軸の１～14まではグリッド毎に表土を除去し、遺構を検出したが、それより北側では機械力を使い表土を除去し、地山を精査し、遺構を検出した。便宜上、南側80ｍラインまでをⅠ地区、それより北をⅡ地区とした。検出した遺構の実測は、Ⅰ地区は、遣り方測量を実施した。Ⅱ地区は平板測量で遺構の位置を記録し、遺構毎に簡易の遣り方測量を行った。

3．発掘調査の経過

発掘調査を開始したのは６月５日であり、グリッド毎に表土を除去し、15基以上の土坑を検出した。６月９日、前回の調査で未調査であった落ち込みの範囲確認のためＧ20グリッドを２ｍ×４ｍで掘り、幅２ｍ、深さ１ｍの掘り込みを確認した。６月10日、ブルドーザーで北側地区の表土を除去する。前日確認した溝がほぼ同じ幅で東西にのびる。６月13日、一次ブルドーザーの表土除去を中止する。６月14日、Ⅰ地区の表土除去が終わる。６月15日、Ⅰラインの東側、７ラインの南側の土層観察用のベルトを残し、他のベルトを除去する。再びブルドーザーで北側地区の表土を除去した。北東側に焼土をともなう土坑を検出した。６月16日以降、Ⅰ地区の地山面を精査し、土坑および柱穴の確認を行う。土坑は４分し、土層観察用のベルトを残し、堆積土を除去する。浅い掘り込みの土坑については、土質・深さ・その他特記事項を記載し、ベルトをとり除いた。第３・21・22・24・33号の土坑については土層観察図を作成した。６月18日、Ⅱ地区の北東側を精査する。溝・土坑・ピット列等検出された。６月24日、Ⅰ地区の遺構精査を終え、全景写真を撮る。６月25日、Ⅰ地区に遣り方を設定する。Ⅱ地区では確認した土坑および溝の堆積土を除去し、記録をとる。６月26日、Ⅰ地区の遺構の実測をとりはじめる。６月28日、Ⅰ・Ⅱ地区の遺構記録をとり終え、調査を終了した。

第2図　Ⅰ地区遺構配置図

第 3 図　Ⅱ地区遺構配置図



第４図　遺跡現状図と調査区域

Ⅲ　検出された遺構

検出された遺構は、Ⅰ地区で、建物跡１・土坑42・溝跡２・小穴などであり、Ⅱ地区では、大溝跡１・溝跡６・土坑27・溝状土坑（Ｔピット）１・小穴などである。

本章ではⅠ地区より順次検出した遺構の説明をする。なおⅠ地区の土坑については群別に配置図を付した。Ⅱ地区では、多数の土坑が検出されたが、本章では形態の判然としたものだけの一部を取り上げ、説明をした。

Ⅰ地区

掘立柱建物跡

棟方向	柱間数 桁×梁	規　模(m)	備　考
南北棟	５×３	12.0× 9.3	東　廂

昭和51年度の調査では、南北棟桁行３間梁行１間あるいはそれ以上の規模の建物と確認されていたが、今回の調査で、南北棟桁行５間梁行３間の建物であり、東側に廂を設けていることが確認された。身舎柱の掘り方は隅丸長方形あるいは円形であり、長径70cm前後である。P_1、P_3、P_6、P_8、P_{10}、P_{12}、P_{13}、P_{14}に柱痕跡らしい落ち込みがある。廂柱の掘り方は円形で長径40cm前後である。建物の規模は、12m×９m30cmであり、柱間寸法は桁行約2.4m、梁行約3.6mである。

表：掘立柱柱穴一覧

PitNo	P_1	P_2	P_3	P_4	P_5	P_6	P_7	P_8	P_9	P_{10}	P_{11}	P_{12}	P_{13}	P_{14}	P_{15}	P_{16}	P_{17}	P_{18}	P_{19}	P_{20}
深さ(cm)	52	60	61	54	56	44	40	57	不明	65	65	58	52.5	62.5	47.5	25	41.5	15	19	32

柱穴列

第１建物の棟方向に平行して６個の柱穴列があり、長さは９m80cmである。柱穴は円形を呈しており、径40～60cmである。P_{25}の上面には凝灰岩質泥岩が入り込んでいる。P_{22}、P_{26}は掘り方で柱痕跡が確認されている。P_{21}、P_{26}に対応して西側にP_{27}、P_{28}があり、南北棟５間１間の建物跡とも考えられる。

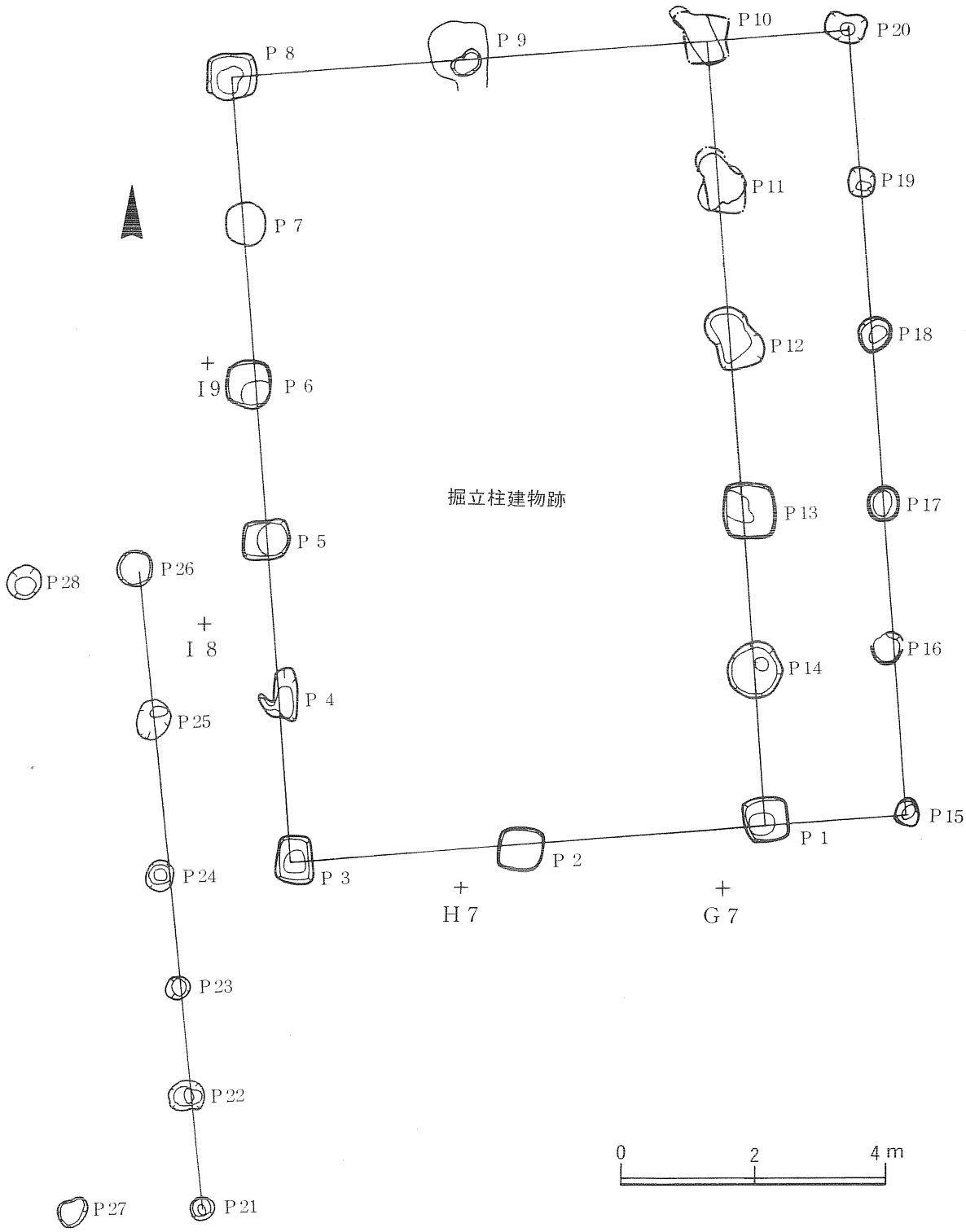
表：ピット一覧

PitNo	P_{21}	P_{22}	P_{23}	P_{24}	P_{25}	P_{26}	P_{27}	P_{28}
深さ(cm)	35	30	9	28	28	29	11	32

溝　跡

１）Ｊ４・５グリッドの中間に幅20cm前後、深さ５cm、長さ４m20cmで南北に走る溝１がある。

２）Ｊ12グリッドから南に走り、Ｊ11の中間で西にややまがり、さらに南の第22号土坑を切る溝２がある。幅20～30cm、長さは12m25cmである。第22号土坑で深さ15cm程である。


P 8
P 9
P 10
P 20
P 11
P 19
P 7
P 12
P 18
I 9
P 6
掘立柱建物跡
P 13
P 17
P 5
P 28
P 26
I 8
P 14
P 16
P 4
P 25
P 15
P 1
P 2
P 24
P 3
H 7
G 7
P 23
P 22
0
2
4 m
P 27
P 21

第５図　掘立柱建物跡

第１号土坑（ＳＫ001）

＜確認状況＞　Ｈ８杭が北側の中心にあり、南側が削平されている。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　不明×１ｍ66cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10ＹＲ2/2）が堆積しており、炭化物が少量混入する。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　17cm	
＜壁・底面の状況＞　確認面からなだらかに落ち込み、底面は堅い。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より少量出土している。	※器種　土師器杯	

第２号土坑（ＳＫ042）

＜確認状況＞　Ｈ４グリッドの北側に位置している。

平面形　円形	規模（長軸×短軸）　１ｍ31cm×１ｍ18cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10ＹＲ2/2）が堆積しており、焼土粒が混入している。		
＜断面の状況＞　箱形を呈している。	確認面からの深さ（最深）　９cm	
＜壁・底面の状況＞　壁高５cm。底面は軟弱で凸凹である。		
＜出土遺物の状況＞　遺物の出土はない。		

第４号土坑（ＳＫ004）

＜確認状況＞　Ｇ６グリッドの西に位置している。

平面形　円形	規模（長軸×短軸）　１ｍ80cm×１ｍ70cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10ＹＲ2/2）が堆積しており、上面中央部に焼土がみられる。		
＜断面の状況＞　皿形を呈している。	確認面からの深さ（最深）　11cm	
＜壁・底面の状況＞　壁高10cm。底面はなだらかな落ち込みで堅い。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より少量出土している。	※器種　土師器杯・甕、須恵器甕	

第５号土坑（ＳＫ005）

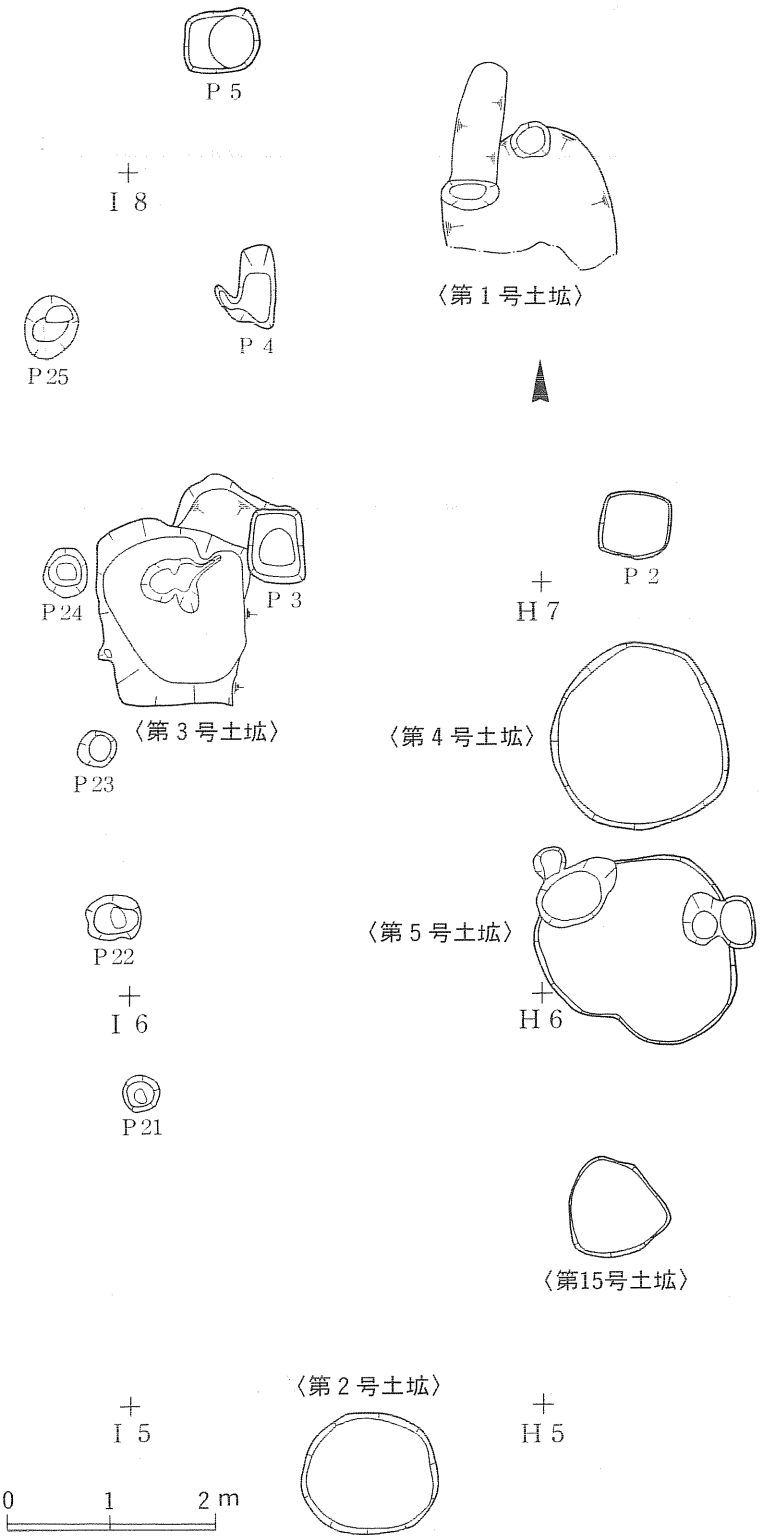
＜確認状況＞　Ｇ６グリッドの西側、第４号土坑の南に位置している。

平面形　不整円形	規模（長軸×短軸）　２ｍ15cm×１ｍ95cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒色土（10ＹＲ2/1）が堆積しており、炭化物が少量混入する。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　８cm	
＜壁・底面の状況＞　底面はなだらかであり、東西に深さ30cm程のピットがある。		
＜出土遺物の状況＞　比較的多量に出土している。	※器種　土師器杯・甕、須恵器甕	

第15号土坑（ＳＫ015）

＜確認状況＞　Ｇ５グリッドの西側、第５号土坑の南に位置している。

平面形　不整円形	規模（長軸×短軸）　径98cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10ＹＲ2/3）が堆積している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　７cm	
＜壁・底面の状況＞　底面は軟弱である。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内よりごく少量出土している。	※器種　土師器甕	

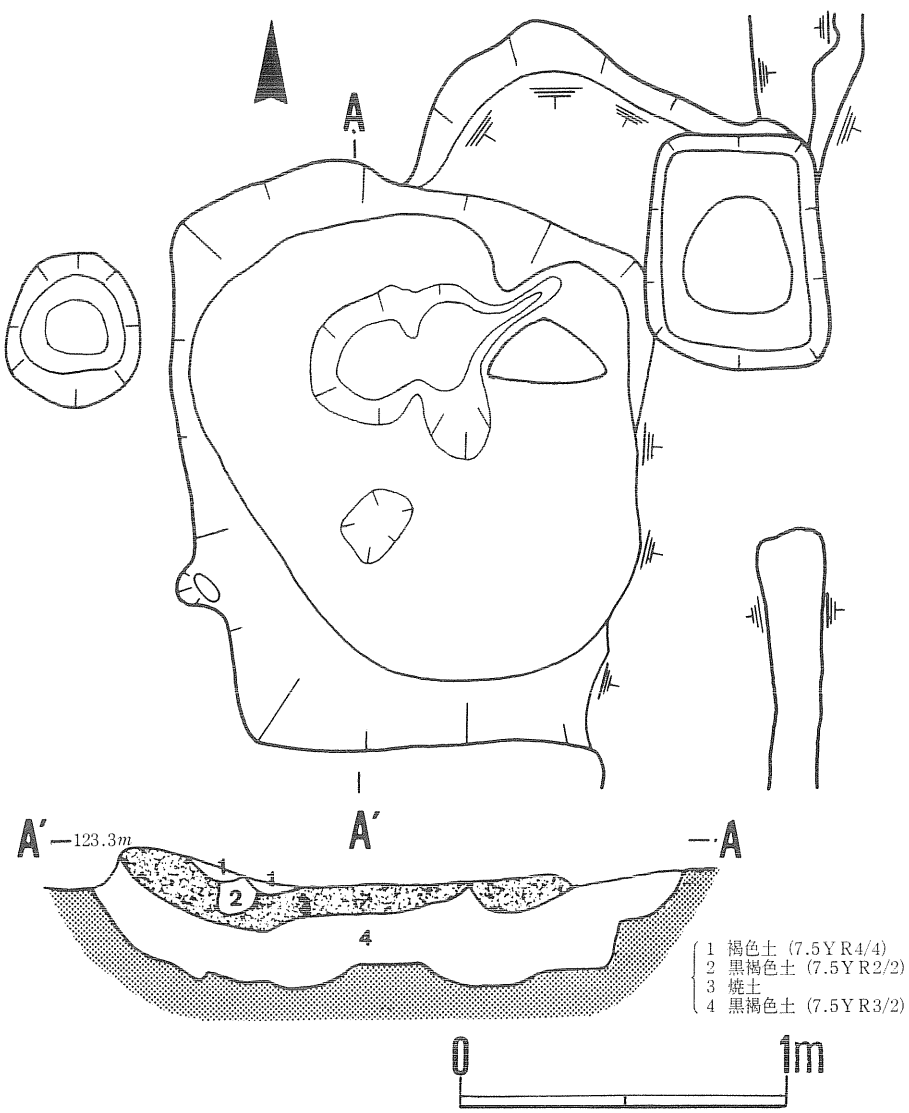

P 5
I 8
P 4
P 25
〈第 1 号土坑〉
P 24
P 3
〈第 3 号土坑〉
P 23
P 2
H 7
〈第 4 号土坑〉
〈第 5 号土坑〉
P 22
I 6
H 6
P 21
〈第15号土坑〉
〈第 2 号土坑〉
I 5
H 5
0
1
2 m

第 6 図　南西部土坑群

第３号土坑（ＳＫ003）

＜確認状況＞　Ｉ６グリッドの北西際に位置し、北東部が掘立柱建物の掘り方P_3で切られている。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　１ｍ80cm×１ｍ50cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞上層を厚さ30cmの焼土が覆い、下層に黒褐色土(10YR2/3)が堆積している。		
＜断面の状況＞　鍋底状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　44cm		
＜壁・底面の状況＞　確認面からなだらかに落ち込むが、凸凹がある。		
＜出土遺物の状況＞　黒褐色土内、底面より土器が出土している。		
※器種　土師器杯（第21図１・２）・鉢（第21図11）・甕、須恵器甕		



第７図　第３号土坑

第６号土坑（ＳＫ038）

＜確認状況＞　Ｆ６グリッドの北側に位置しており、東北部に焼土が浮いていた。

平面形　不整円形	規模（長軸×短軸）　1 m54cm × 1 m50cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　黒褐色土(10YR2/3)が堆積し、東側に白色粘土が、東北部に焼土が浮く。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　11cm		
＜壁・底面の状況＞　壁高５cm。		
＜出土遺物の状況＞覆土内より比較的多く出土している。　※器種　土師器杯(第21図９)		

第７号土坑（ＳＫ007）

＜確認状況＞　Ｆ６グリッド内、第６号土坑の東に位置している。

平面形　円形	規模（長軸×短軸）　1 m40cm × 1 m32cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10YR2/3）が堆積しており、焼土塊、炭化物が混入する。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　10cm		
＜壁・底面の状況＞　壁高10cm。　底面は凸凹があるが、堅い。		
＜出土遺物の状況＞覆土内より多く出土している。　※器種　土師器杯・甕、須恵器甕		

第８号土坑（ＳＫ008）

＜確認状況＞　Ｆ５グリッドの南西側に位置している。

平面形　不整円形	規模（長軸×短軸）　1 m25cm × 1 m20cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10ＹＲ2/3）が堆積している。		
＜断面の状況＞皿状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　4 cm		
＜壁・底面の状況＞　壁はほとんどない。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内よりごく少量の土器の破片が出土している。		

第９号土坑（ＳＫ009）

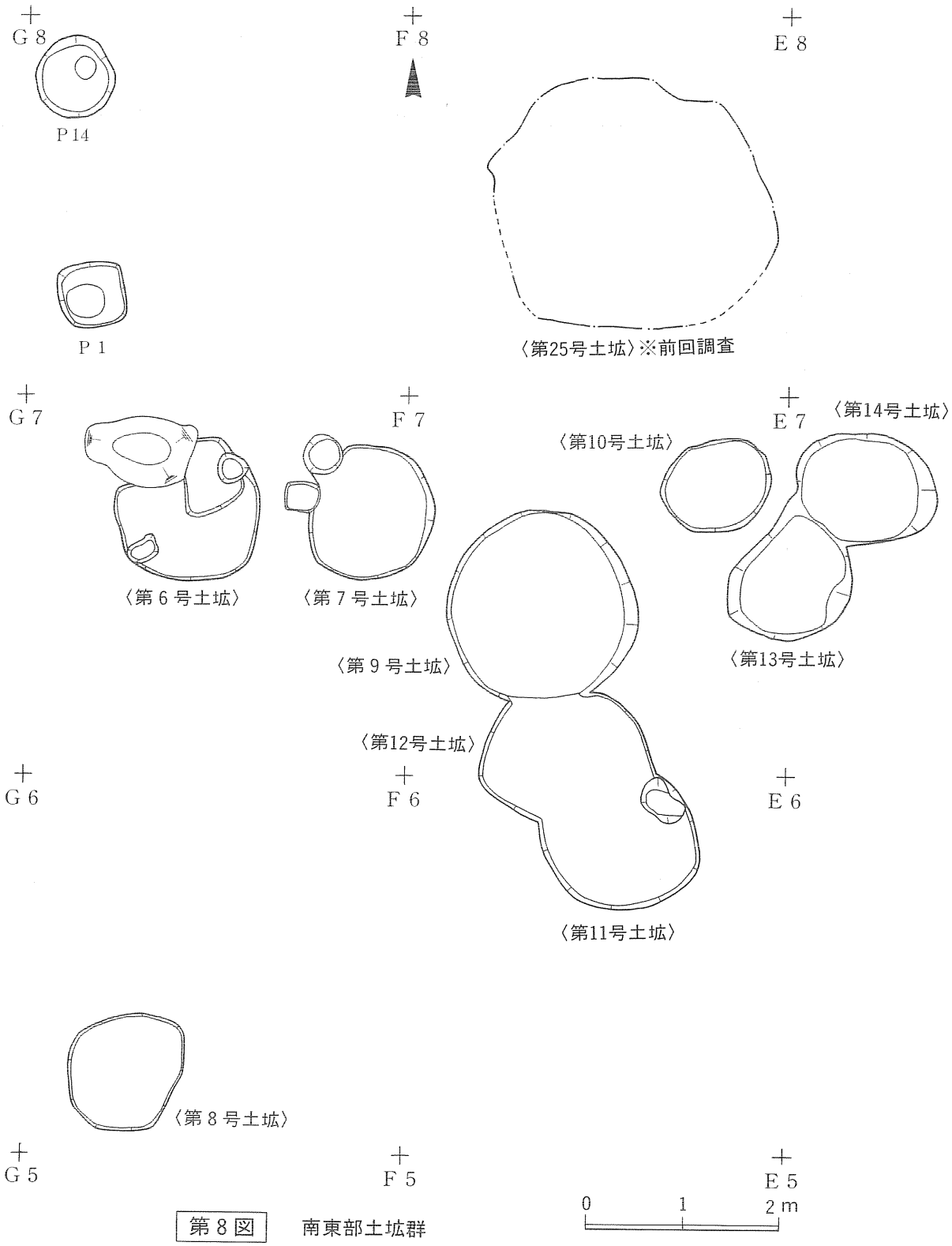
＜確認状況＞　Ｅ６グリッドの中央部に位置しており、南側は第12号土坑で掘り込まれている。

平面形　円形	規模（長軸×短軸）　2 m00cm × 2 m00cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土(10YR2/3)が堆積しており、地山の黄褐色土が浮いている。		
＜断面の状況＞　箱形を呈している。　確認面からの深さ（最深）　12.5cm		
＜壁・底面の状況＞　壁高４cm。底面は比較的平坦である。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内よりごく少量の土器の破片が出土している。		

第10号土坑（ＳＫ010）

＜確認状況＞　Ｅ６グリッドの中央部に位置しており、第12号土坑を掘り込んでいる。

平面形　円形	規模（長軸×短軸）　1 m15cm × 1 m00cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　黒褐色土(10YR2/3)が堆積しており、中央部に白色粘土が浮いている。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　14cm		
＜壁・底面の状況＞　壁高11cm。　底面は凸凹がある。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内よりごく少量の土器の破片が出土している。		


G 8
F 8
E 8
P 14
P 1
〈第25号土坑〉※前回調査
G 7
F 7
E 7
〈第14号土坑〉
〈第10号土坑〉
〈第 6 号土坑〉
〈第 7 号土坑〉
〈第 9 号土坑〉
〈第13号土坑〉
〈第12号土坑〉
G 6
F 6
E 6
〈第11号土坑〉
〈第 8 号土坑〉
G 5
F 5
E 5
0
1
2 m

第 8 図　南東部土坑群

第11号土坑（ＳＫ011）

＜確認状況＞　Ｅ５グリッドの北側に位置しており、北側を第12号土坑に掘り込まれている。

平面形　円形	規模（長軸×短軸）　1ｍ67cm×1ｍ50cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（5YR2/1）が堆積している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　14cm	
＜壁・底面の状況＞　壁高13cm。底面は平坦で堅く、東北寄りに30cm幅の火床部がある。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内よりごく少量の土器の破片が出土している。		

第12号土坑（ＳＫ048）

＜確認状況＞　第11号土坑の北側を掘り込んでおり、南側を第９号土坑で掘り込まれている。

平面形　円形	規模（長軸×短軸）　1ｍ85cm×1ｍ50cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　褐色土（7.5YR4/4）が堆積している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　13cm	
＜壁・底面の状況＞　壁高５cm。底面はかなり凸凹している。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より少量の土器の破片が出土している。		

第13号土坑（ＳＫ013）

＜確認状況＞　Ｅ６、Ｄ６グリッドの中間にあり、東北部を第14号土坑で掘り込まれている。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　1ｍ30cm×1ｍ15cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10YR2/3）が堆積している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　21cm	
＜壁・底面の状況＞　壁高21cm。底面は凸凹があり、自然石が１個底面に付着している。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より比較的多量に出土している。　※器種　土師器杯・甕		

第14号土坑（ＳＫ014）

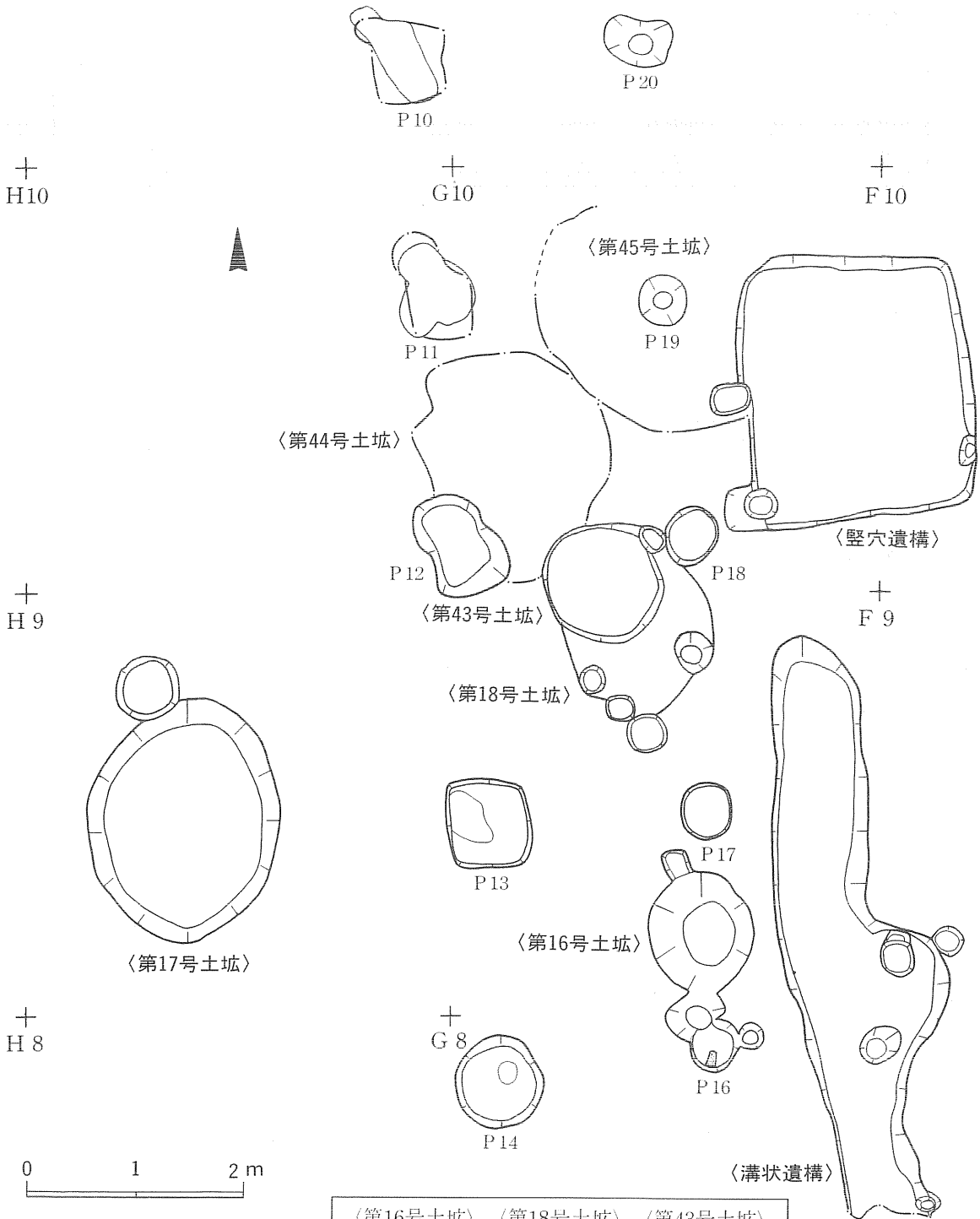
＜確認状況＞　第13号土坑の南西部を掘り込んでいる。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　1ｍ45cm×1ｍ15cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　黒褐色土(10YR2/2)が堆積しており、東北隅の上面に焼土が浮いている。		
＜断面の状況＞　鍋底状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　20cm	
＜壁・底面の状況＞　壁高15cm。　底面は凸凹している。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より多量に出土している。　※器種　土師器杯・甕、須恵器甕		

第17号土坑（ＳＫ017）

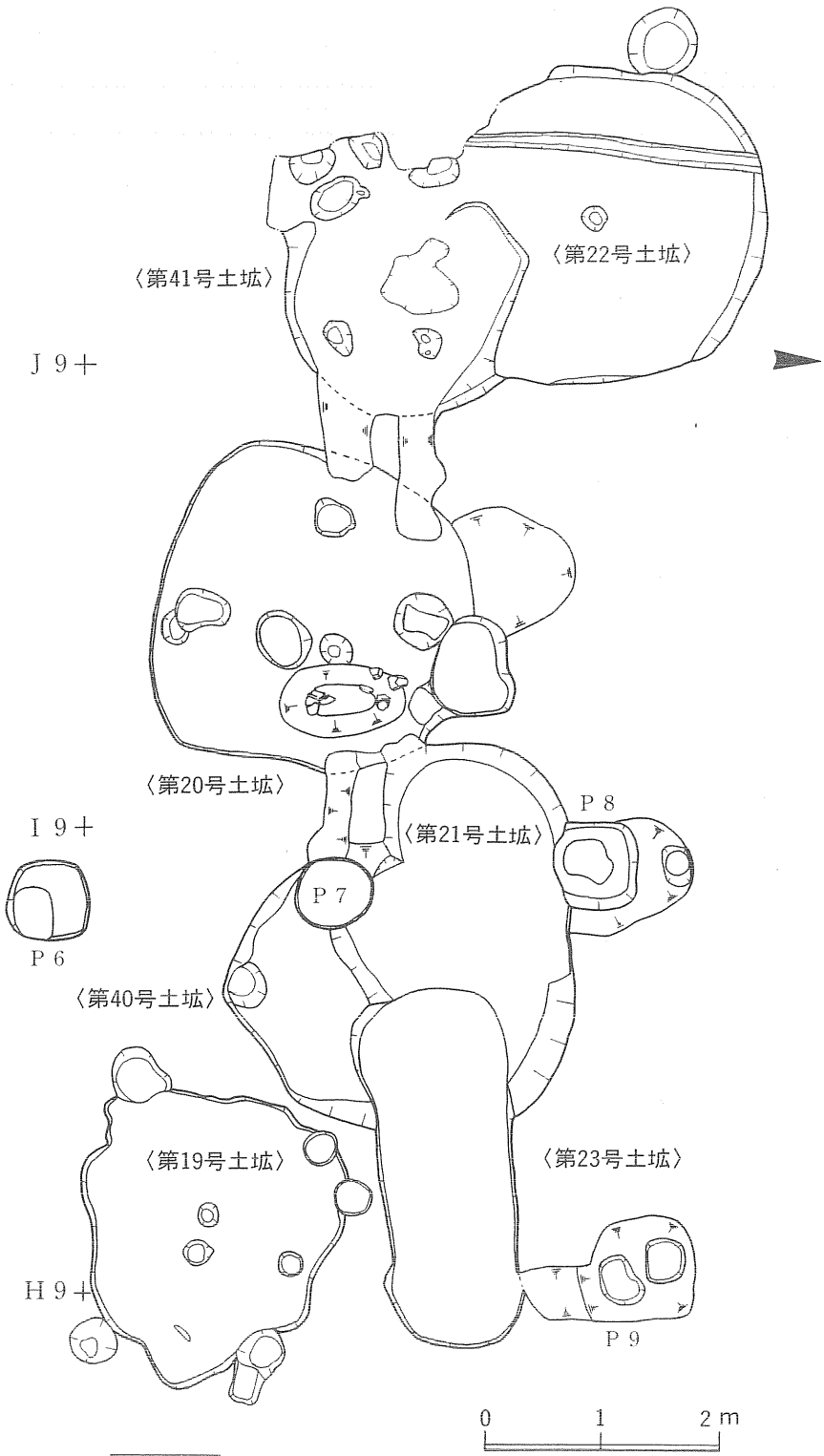
＜確認状況＞

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　2ｍ30cm×1ｍ80cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞黒褐色土（10YR3/2）が堆積し、南側中位に黒色土が入り込む。		
＜断面の状況＞　皿状を呈する。	確認面からの深さ（最深）　14cm	
＜壁・底面の状況＞　確認面よりなだらかに落ち込み、底面は平坦である。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より多くの土器が出土している。　※器種　土師器杯・甕		



〈第16号土坑〉〈第18号土坑〉〈第43号土坑〉〈第44号土坑〉〈第45号土坑〉は前回の調査で検出されており、改めて土坑番号を付した。

第９図　中央部土坑群


〈第41号土坑〉
〈第22号土坑〉
J 9＋
〈第20号土坑〉
I 9＋
〈第21号土坑〉
P 8
P 7
P 6
〈第40号土坑〉
〈第19号土坑〉
〈第23号土坑〉
H 9＋
P 9
0
1
2 m

第10図　西部土坑群

第20号土坑（ＳＫ020）

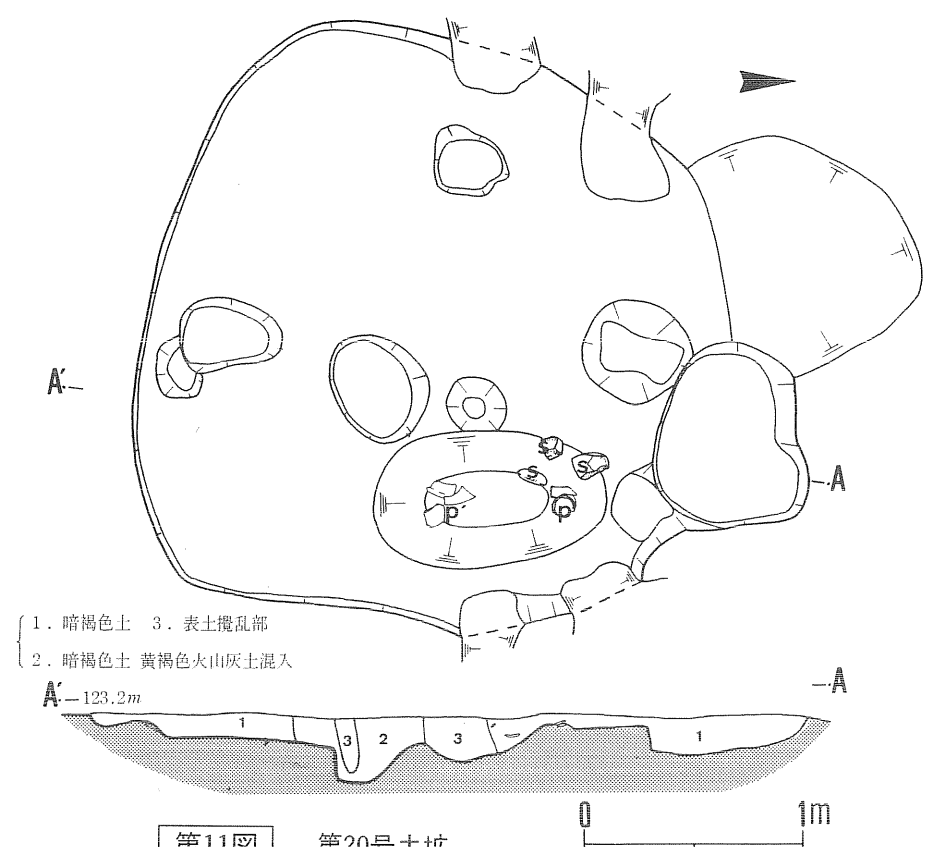
＜確認状況＞　Ｉ９グリッドの中央部に位置しており、第21号土坑と東側で接している。

平面形　不整円形	規模（長軸×短軸）　2 *m*72*cm*×2 *m*70*cm*	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10YR2/3）が堆積しており、焼土および炭化物が混入する。		
＜断面の状況＞　皿状をしている。　確認面からの深さ（最深）　10*cm*		
＜壁・底面の状況＞　南側で壁高10*cm*。　南側の底面は平坦である。		
＜出土遺物の状況＞　大形の土器の破片が東側のピットより出土している。		
※器種　土師器杯・甕、須恵器甕		

第21号土坑（ＳＫ021）

＜確認状況＞　Ｉ９グリッドの北東の位置、第40号土坑を掘り込んだ形態不明の土坑をさらに掘り込んでいる。掘立柱建物の掘り方P_8が西壁に接している。

平面形 不整円形か？	規模（長軸×短軸）　1 *m*55*cm*×不　明	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　上層は黄褐色火山灰土が混入した黒褐色土（10YR3/2）がレンズ状に、下層に極暗褐色土（7.5YR2/3）が堆積している。		
＜断面の状況＞　鍋底状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　32*cm*		
＜壁・底面の状況＞　確認面よりなだらかに落ち込む。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より土器が多量に出土している。　※器種　土師器杯・甕		



第11図　第20号土坑

第23号土坑（ＳＫ023）

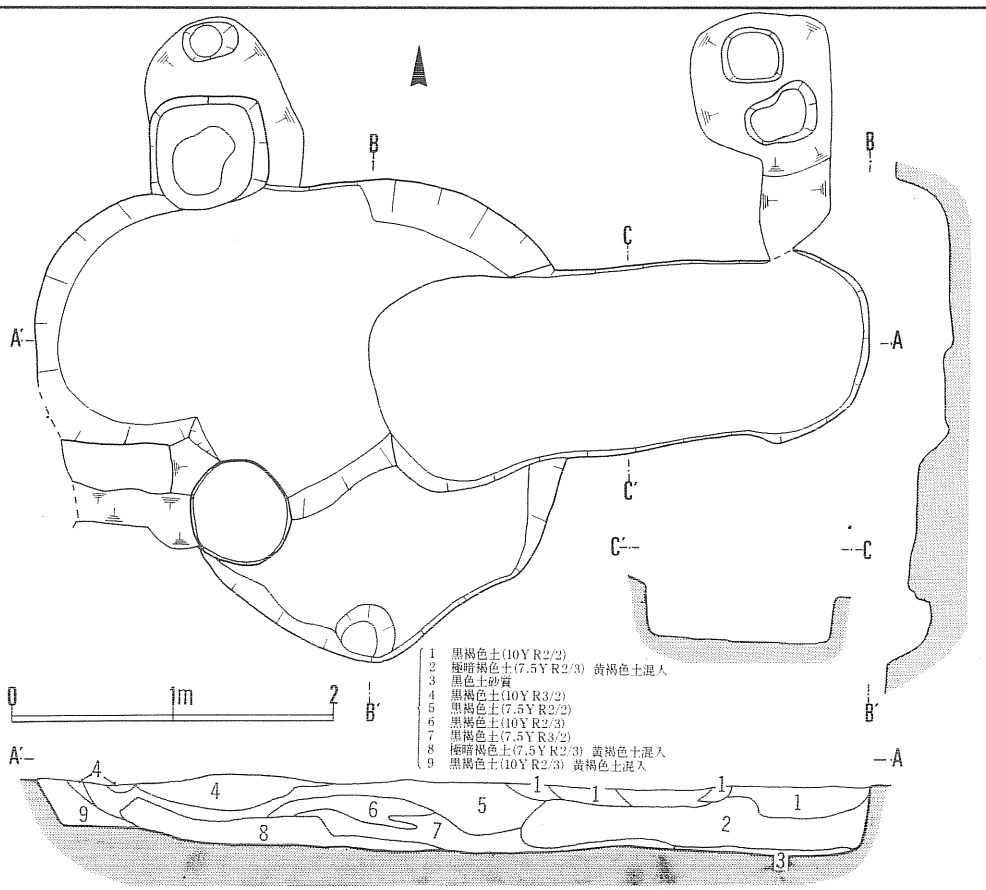
＜確認状況＞　Ｈ９グリッドの北側に位置し、第40号土坑により西側壁が掘り込まれている。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　3 *m*10*cm*× 1 *m*15*cm*	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　上層は黒褐色土（10YR2/2）が、中間層には黄褐色火山灰土が混入した極暗褐色土(7.5YR2/3)が堆積し、さらに下層に5*cm*の厚さで砂質の黒土が入る。		
＜断面の状況＞　箱形を呈している。	確認面からの深さ（最深）　42*cm*	
＜壁・底面の状況＞　壁高40*cm*　南・北・東側が垂直に落ち込み、底面は平坦である。		
＜出土遺物の状況＞覆土内より多量の土器が出土。※器種　土師器杯(第21図５)・甕、須恵器甕		

第40号土坑（ＳＫ040）

＜確認状況＞　Ｈ9グリッド内にあり、第23号土坑の東側壁を掘り込んでおり、西側は形態の不明な土坑により掘り込まれている。掘立柱建物の掘り方P_7が東壁に接している。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　3 *m*00*cm*× 2 *m*15*cm*	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　極暗褐色土（7.5YR2/3）が堆積している。		
＜断面の状況＞　鍋底状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　20*cm*	
＜壁・底面の状況＞　底面は比較的平坦である。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より多くの土器が出土。※器種　土師器杯(第21図10)・甕、須恵器甕		



第12図　第21・23・40号土坑

第22号土坑（ＳＫ022）

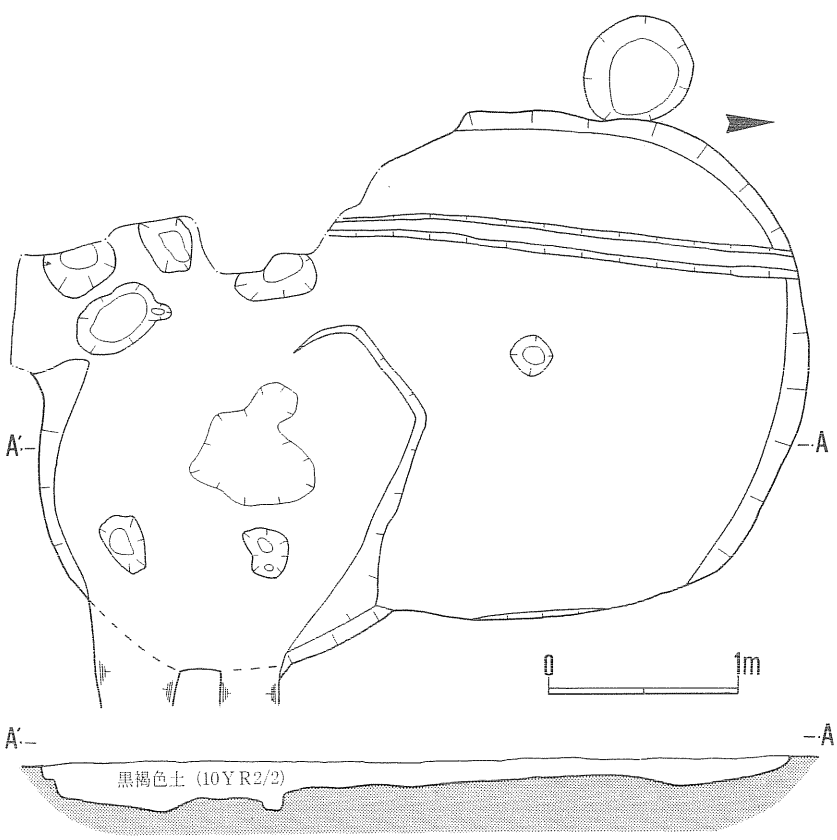
＜確認状況＞　Ｉ９グリッドの南側に位置している。南側は第41号土坑で掘り込まれ、西側に幅15cmの細い溝が南北に走る。

平面形　円形	規模（長軸×短軸）　2 m63cm × 2 m60cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10YR2/2）が上層に、下層に黒色土（10YR2/1）が堆積する。炭化物が中位に一面に入り込む。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　10cm	
＜壁・底面の状況＞　壁高10cm。確認面からなだらかに落ち込み、底面は平坦である。		
＜出土遺物の状況＞覆土内より土器が多量に出土。※器種　土師器杯(第21図4)・甕、須恵器甕		

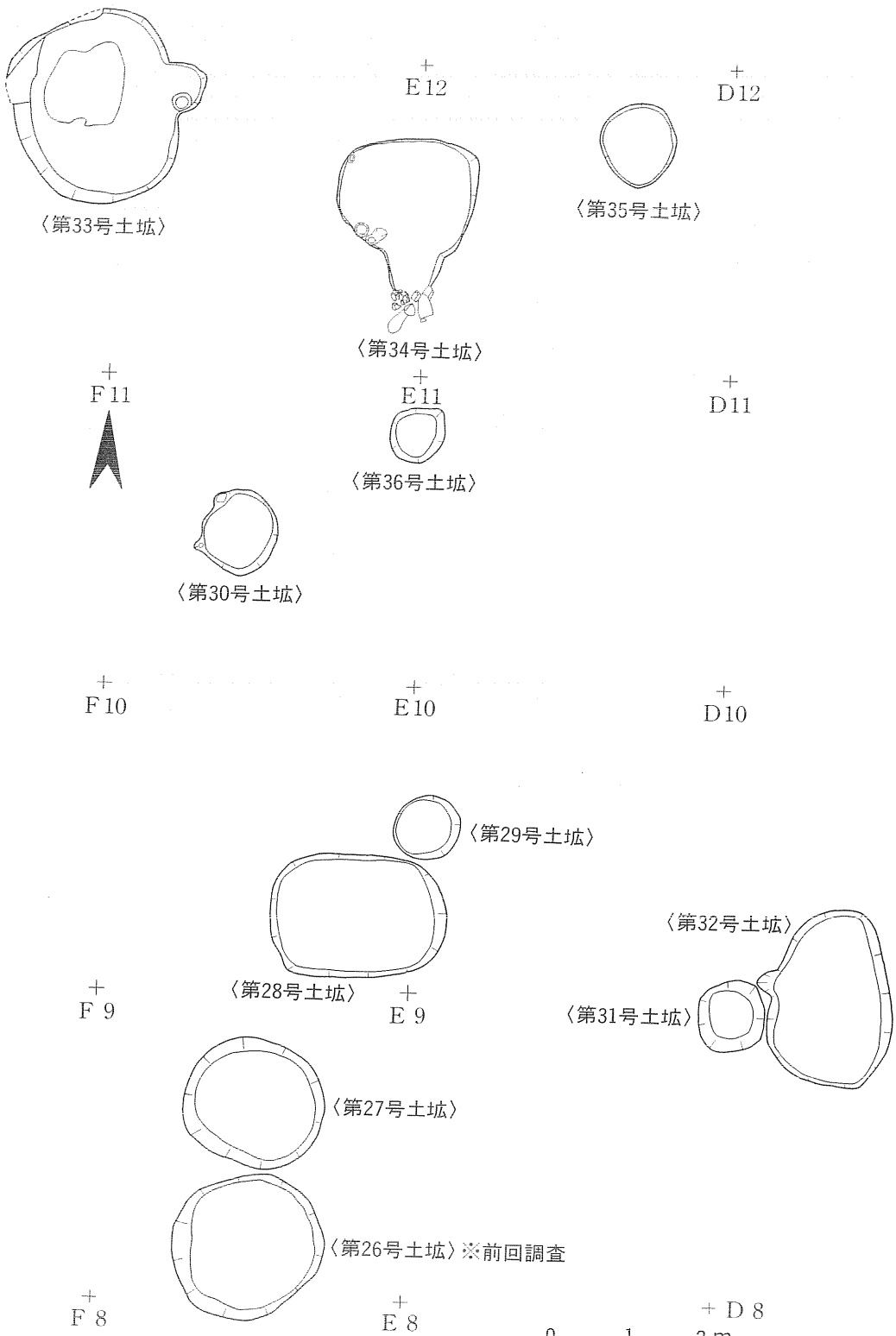
第41号土坑（ＳＫ045）

＜確認状況＞　Ｊ９グリッドの北東際に位置し、第22号土坑の南側を掘り込んでいる。

平面形　不整円形	規模（長軸×短軸）　2 m10cm × 2 m10cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10YR2/3）が堆積しており、焼土・炭化物が混入する。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　20cm	
＜壁・底面の状況＞　底面は平坦であるが、中央部はいくぶん凹む。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より多量の土器が出土。　※器種　土師器杯・甕、須恵器甕		



第13図　第22・41号土坑


E12
D12
〈第33号土坑〉
〈第35号土坑〉
〈第34号土坑〉
F11
E11
D11
〈第36号土坑〉
〈第30号土坑〉
F10
E10
D10
〈第29号土坑〉
〈第32号土坑〉
〈第28号土坑〉
F 9
E 9
〈第31号土坑〉
〈第27号土坑〉
〈第26号土坑〉※前回調査
F 8
E 8
D 8
0
1
2 m

第14図　東部土坑群

第19号土坑（ＳＫ019）

＜確認状況＞　Ｈ９グリッドの東南際にあり、第23号土坑の南側に位置する。

平面形　不整円形	規模（長軸×短軸）　2 m55cm×2 m25cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞ 黒褐色土(10YR2/2)が堆積しており、炭化物が多量に混入している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　10cm	
＜壁・底面の状況＞　壁高10cm。南側の底面は平坦であるが、浅いピットが中央および壁の間。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より少量の土器が出土している。		

第27号土坑（ＳＫ027）

＜確認状況＞　Ｅ８グリッドの中央部に位置しており、南側は昭和51年に調査している。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　1 m80cm×1 m65cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（7.5YR3/2）が堆積している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　16cm	
＜壁・底面の状況＞　壁高は西側で25cm、東側で11cmであり、底面は平坦である。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より少量の土器が出土している。		

第28号土坑（ＳＫ028）

＜確認状況＞　Ｅ９グリッドの南東際に位置しており、北側に第29号土坑がある。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　2 m27cm×1 m60cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞ 黒褐色土(10YR2/2)が堆積しており、下層に炭化物と焼土を少し含む。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　9 cm	
＜壁・底面の状況＞ 壁高５cm。地山の黄褐色土よりなだらかに落ち込み、底面は平坦である。		
＜出土遺物の状況＞ 土器の破片が多く出土している。　※器種　土師器杯・甕、須恵器甕		

第29号土坑

＜確認状況＞　Ｄ９グリッドの西側に位置している。

平面形　円形	規模（長軸×短軸）　85cm×83cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10YR2/3）が堆積している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　10cm	
＜壁・底面の状況＞　底面は平坦である。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内よりごく少量の土器が出土している。		

第30号土坑

＜確認状況＞　Ｅ10グリッドの中央部に位置している。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　1 m10cm×97cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞ 黒色土(10YR2/1)が堆積しており、中央部に底面より浮いて炭化物がある。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　12cm	
＜壁・底面の状況＞　西側で壁高６cm。底面は凸凹があり、軟弱である。		
＜出土遺物の状況＞　遺物の出土はない。		

挿図目次

第1図	周辺地形図	1頁
第2図	Ⅰ地区遺構配置図	
第3図	Ⅱ地区遺構配置図	
第4図	現状図と調査区域	3頁
第5図—Ⅰ—	掘立柱建物跡	5頁
第6図 〃	南西部土坑群	7頁
第7図	第3号土坑	8頁
第8図	南東部土坑群	10頁
第9図	中央部土坑群	12頁
第10図	西部土坑群	13頁
第11図	第20号土坑	14頁
第12図	第21・23・40号土坑	15頁
第13図	第22・41号土坑	16頁
第14図	東部土坑群	17頁
第15図	第33号土坑	20頁
第16図—Ⅱ—	大溝跡	22頁
第17図 〃	第2号土坑	23頁
第18図	第8号土坑	24頁
第19図	第24号土坑	24頁
第20図	溝状土坑	25頁
第21図	Ⅰ地区出土遺物	27頁
第22図	Ⅱ地区出土遺物	29頁
第23図	Ⅰ・Ⅱ地区出土石器	31頁
付　表	遺構内出土土器一覧	30頁

図版目次

図版1	発掘調査風景、Ⅰ地区遺跡全景
図版2	大溝跡、大溝跡断面
図版3—Ⅰ—	中央部近景、西部土坑群近景
図版4 〃	南東部土拡群、第10・14・13号土坑
図版5	第9・12・11、22・41、34・30号土坑
図版6	第21・23・40号土坑断面
図版6	第21・23・40号、第19号土坑
図版7	第3号、第21号、第24号土坑断面
図版8	第3号土坑
図版9	第20号土坑の遺物出土状況
図版9	第34号土坑の遺物出土状況
図版10	第24号土坑
図版11	第31号、第33号、第35号土坑
図版12—Ⅱ—	Ⅱ地区北東部近景、第4号土坑
図版13 〃	第8号土坑、ピット1、第26号土坑
図版14	第2号、第7号、第10号土坑
図版15	第10号、第24号、第19号土坑
図版16	Ⅰ地区出土遺物(1)
図版17	Ⅰ地区出土遺物(2)
図版18	Ⅱ地区出土遺物(1)
図版19	Ⅱ地区出土遺物(2)
表　紙	遺跡全景

第31号土坑（ＳＫ031）

＜確認状況＞　Ｃ８グリッドの西側に位置し、東側が第32号土坑と接している。

平面形　円形	規模（長軸×短軸）　90cm×90cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　上面に焼土が厚く堆積し、その下に暗赤褐色土(5ＹＲ3/3)が入り込む。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　7 cm		
＜壁・底面の状況＞　確認面からなだらかに落ち込み、底面は凸凹がある。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内よりやや多く土器が出土。　※器種　土師器杯・甕、須恵器甕		

第32号土坑

＜確認状況＞

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　2 m33cm×1 m50cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　暗赤褐色土（５ＹＲ3/3）が堆積している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　7.5cm		
＜壁・底面の状況＞　底面は平坦である。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内よりごく少量の土器が出土している。		

第34号土坑（ＳＫ034）

＜確認状況＞　E11、D11グリッドの中間に位置しており、上面より多量の土器が確認された。

平面形　楕円形南張り出し	規模（長軸×短軸）　1 m80cm×1 m55cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10YR2/3）が堆積している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　6 cm		
＜壁・底面の状況＞　壁高６cm。　底面はかなり凸凹している。		
＜出土遺物の状況＞　覆土上面より径60cmの範囲で多量の土師器杯が出土した。		

第35号土坑（ＳＫ035）

＜確認状況＞

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　1 m10cm×95cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土(10YR3/1)が堆積しており、北側上面に焼土が浮いている。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　7 cm		
＜壁・底面の状況＞　壁高４cm。　底面は平坦で堅い。		
＜出土遺物の状況＞覆土内より多量に出土。　※器種　土師器杯(第21図８)・甕、須恵器甕		

第36号土坑（ＳＫ051）

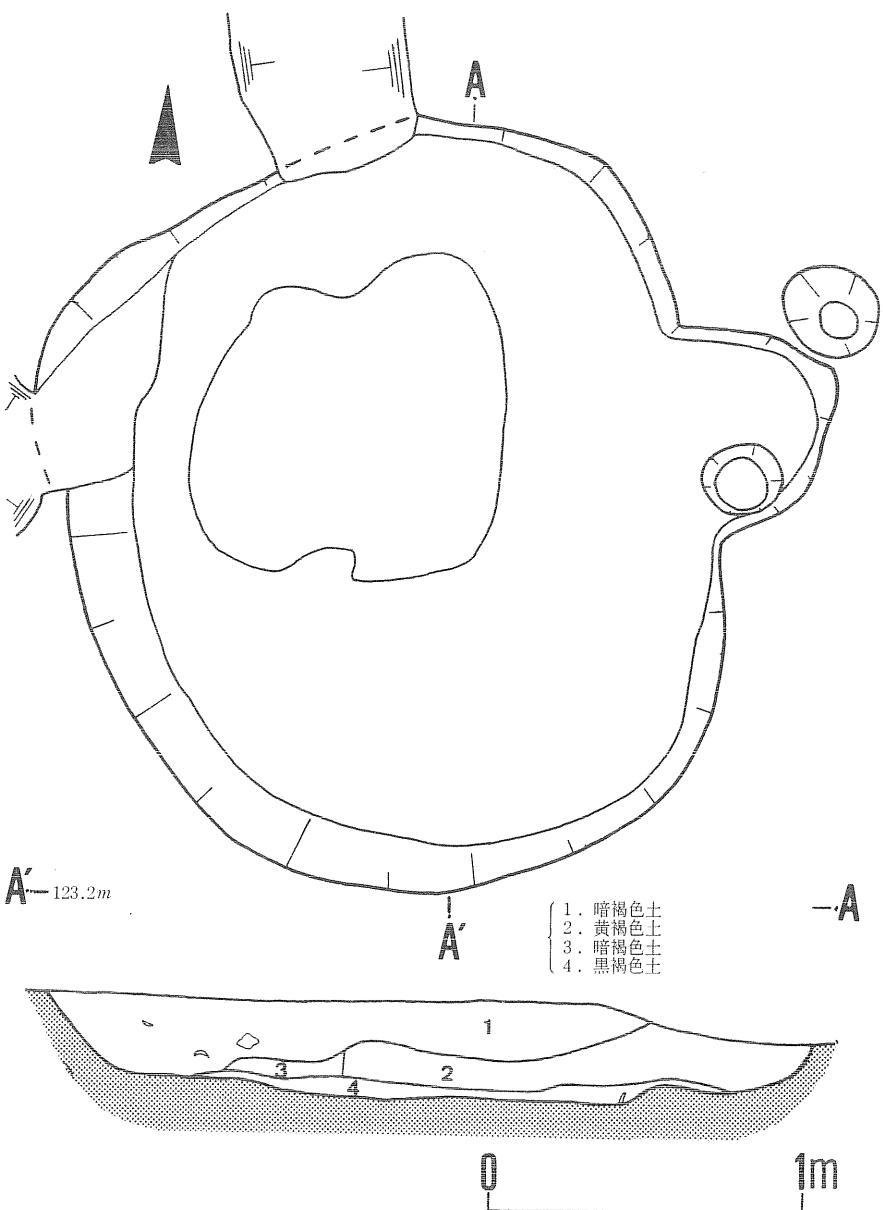
＜確認状況＞

平面形　不整円形	規模（長軸×短軸）　70cm×70cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土(10YR2/3)が堆積しており、炭化物の塊が混入する。		
＜断面の状況＞　U字状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　20cm		
＜壁・底面の状況＞　壁高18cm。　底面は平坦で堅い。		
＜出土遺物の状況＞　底面より浮いて多量の土器が出土している。　※器種　土師器杯・甕		

第33号土坑（ＳＫ033）

＜確認状況＞　Ｆ12杭が北側の中間にあり、北側と西側の一部が後世の攪乱をうけている。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　2 m50cm × 2 m10cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土(5YR2/1)が堆積し、中位から下層に炭化物が多く混入する。		
＜断面の状況＞　鍋底状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　26cm		
＜壁・底面の状況＞　確認面からなだらかに落ち込み、底面は凸凹で炭化物が付着する。		
＜出土遺物の状況＞　覆土中位より多量の土器が出土。　※器種 土師器杯(第21図6・7)・甕、須恵器甕		



第15図　第33号土坑

第24号土坑（ＳＫ024）

＜確認状況＞　H11、H12グリッドの東側に位置し、東側は後世の攪乱をうけている。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　3 m00cm×不明	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土(10YR2/3)が堆積しており、中央部に焼土が浮いている。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　33cm	
＜壁・底面の状況＞　西側で壁高12cm。底面は凸凹である。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内よりかなり多量の土器が出土し、土師器甕が多い。 ※器種　土師器杯・甕、須恵器杯・甕		

第37号土坑（ＳＫ037）

＜確認状況＞　G13グリッド内にあり、北側に攪乱をうけている。

平面形 不整円形	規模（長軸×短軸）　1 m92cm×1 m70cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒色土（7.5YR1.7/1）が堆積している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　19cm	
＜壁・底面の状況＞　底面は凸凹があり、軟弱である。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より土器の破片がごく少量出土している。		

第38号土坑（ＳＫ046）

＜確認状況＞　I 12グリッドの北側に位置している。西南、北側に攪乱をうけている。

平面形 不整円形	規模（長軸×短軸）　2 m10cm×1 m90cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞黒褐色土（10YR2/2）が堆積している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　8 cm	
＜壁・底面の状況＞　壁高８cm。底面は西側は攪乱されているが、東側は平坦で堅い。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内から土器の破片がごく少量出土している。		

第39号土坑（ＳＫ039）

＜確認状況＞　調査区の西端、Ｊ７グリッドの西側に位置している。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　1 m53cm×1 m35cm	長軸方向　東―西
＜堆積土の状況＞　黒褐色土(５YR2/1）が堆積しており、炭化物が少量含まれている。		
＜断面の状況＞　鍋底状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　20cm	
＜壁・底面の状況＞　壁高11cm。　底面はかなり軟弱である。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より土器の破片が少量出土している。		

第42号土坑（ＳＫ050）

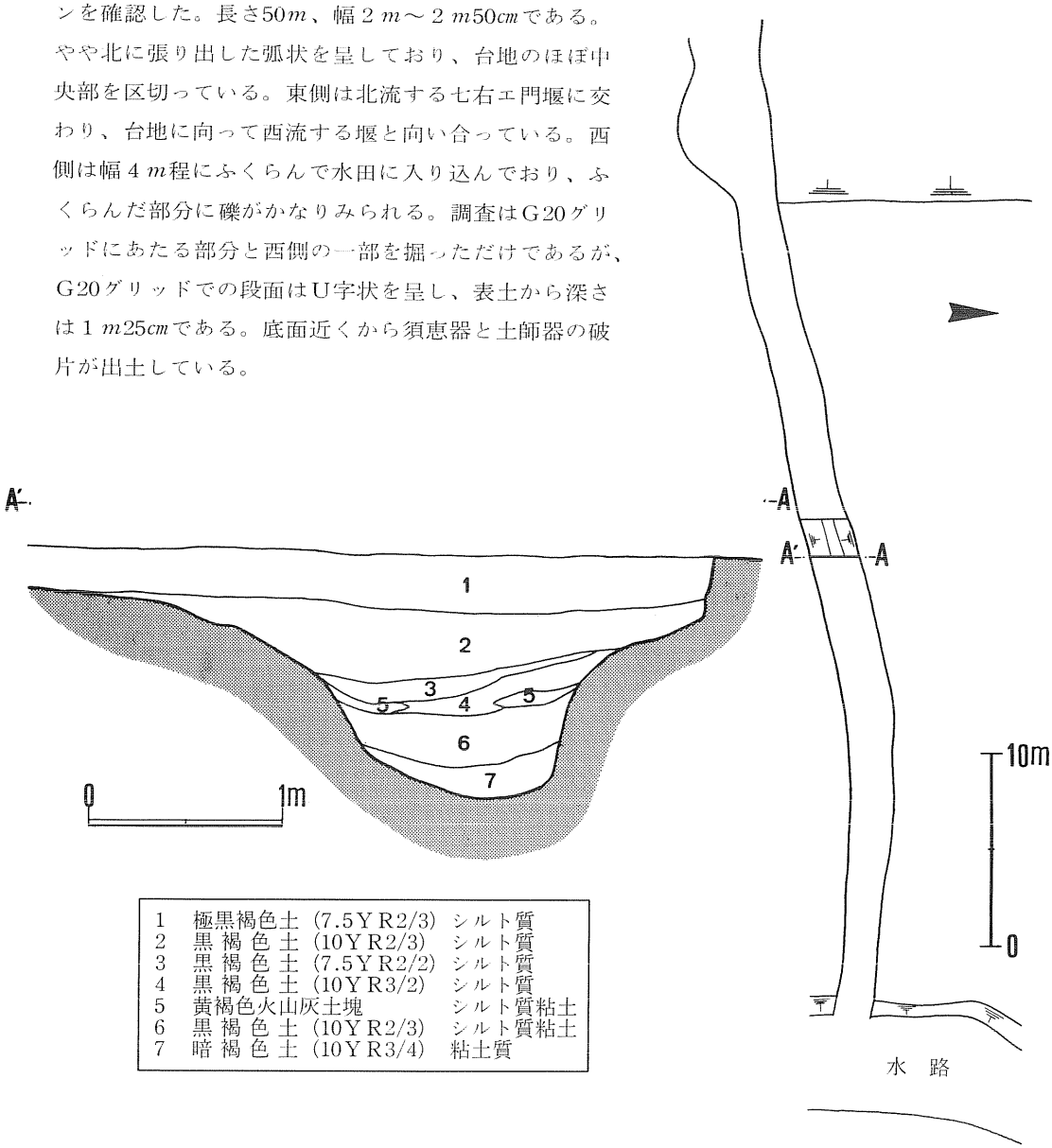
＜確認状況＞　調査区の西端、Ｆ13グリッドの南東側に位置している。

平面形　楕円形	規模（長軸×短軸）　1 m00cm×1 m30cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒褐色土（10YR2/2）が堆積している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　15cm	
＜壁・底面の状況＞　底面は軟弱である。		
＜出土遺物の状況＞　遺物は出土していない。		

II地区

大溝跡

G20グリッドに深さ1m程の落ち込みを確認し、機械力で表土を除去し、黄褐色火山灰層を精査してプランを確認した。長さ50m、幅2m～2m50cmである。やや北に張り出した弧状を呈しており、台地のほぼ中央部を区切っている。東側は北流する七右エ門堰に交わり、台地に向って西流する堰と向い合っている。西側は幅4m程にふくらんで水田に入り込んでおり、ふくらんだ部分に礫がかなりみられる。調査はG20グリッドにあたる部分と西側の一部を掘っただけであるが、G20グリッドでの段面はU字状を呈し、表土から深さは1m25cmである。底面近くから須恵器と土師器の破片が出土している。



1	極黒褐色土	(7.5YR2/3)	シルト質
2	黒褐色土	(10YR2/3)	シルト質
3	黒褐色土	(7.5YR2/2)	シルト質
4	黒褐色土	(10YR3/2)	シルト質
5	黄褐色火山灰土塊		シルト質粘土
6	黒褐色土	(10YR2/3)	シルト質粘土
7	暗褐色土	(10YR3/4)	粘土質

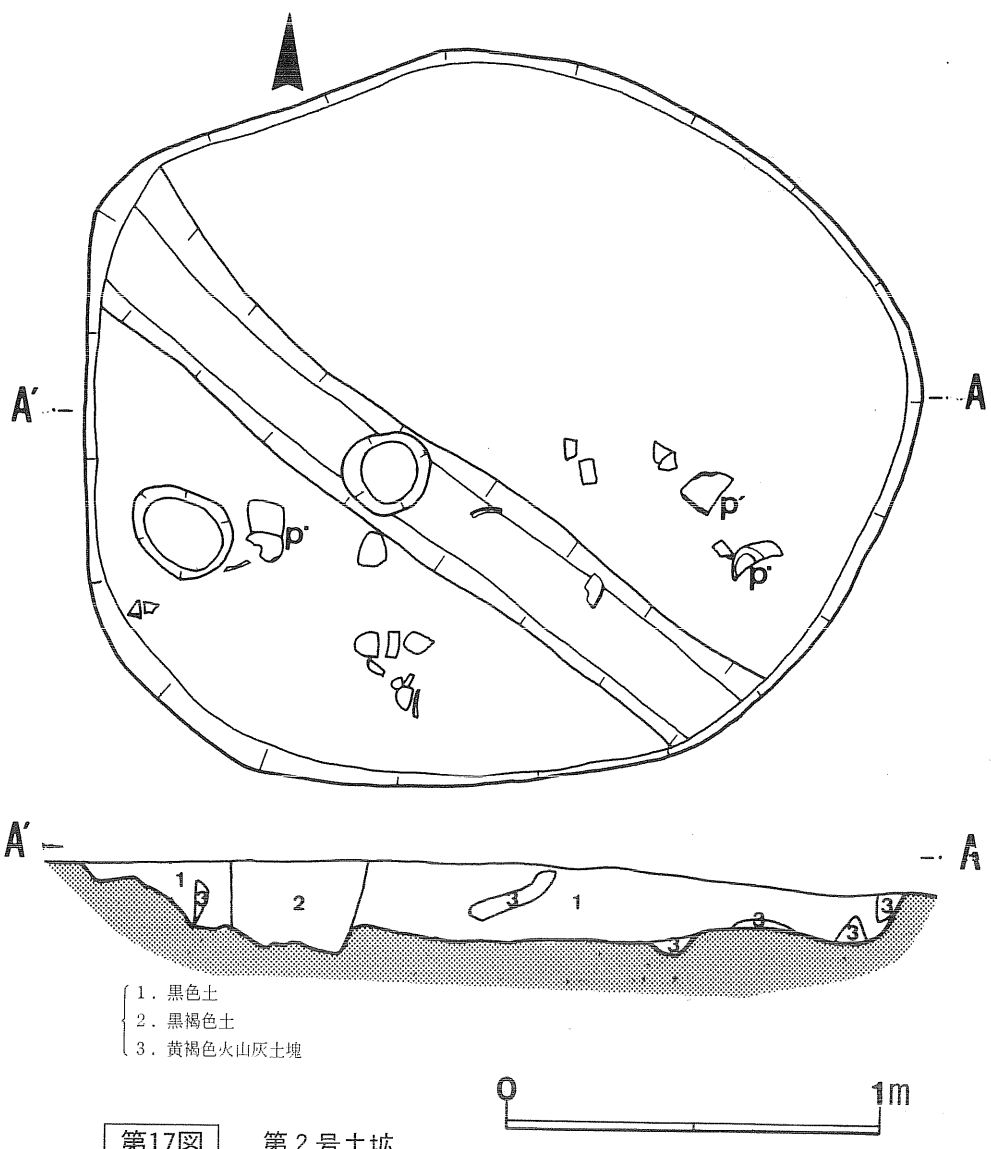
第16図　大溝跡

Ⅱ地区では、大溝跡の他土坑が27、溝跡６、溝状土坑１が検出されているが、ここでは、土坑４と溝跡６について図と説明を加えた。

第２号土坑（ＳＫ002）

＜確認状況＞　台地の北東側縁に近く位置している。東西に幅27*cm*の溝が走っている。

平面形　円形	規模（長軸×短軸）　２*m*22*cm*×２*m*00*cm*	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　黒色土が堆積しており、中位に黄褐色火山灰土塊が浮いている。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。　確認面からの深さ（最深）　40*cm*		
＜壁・底面の状況＞　壁高20*cm*。　底面はゆるやかに波打っている。		
＜出土遺物の状況＞　底面よりやや浮いて土器が多量に出土した。		
※器種　土師器杯（第22図１）・甕、須恵器甕、羽口（第22図13）		



第17図　第２号土坑

第８号土坑（ＳＫ008）

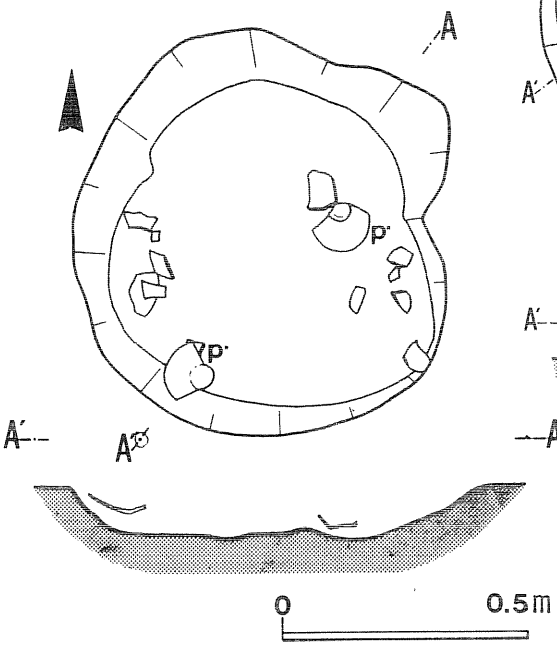
＜確認状況＞　Ⅱ地区北東側発掘区の中央部に位置していた。

平面形　円形	規模（長軸×短軸）　83cm×80cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞黒色土が堆積している。		
＜断面の状況＞　皿状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　11cm	
＜壁・底面の状況＞　なだらかに落ち込み、底面はやや波打っている。		
＜出土遺物の状況＞　底面よりやや浮いて土器が出土。　※器種　土師器杯(第22図2)・甕		

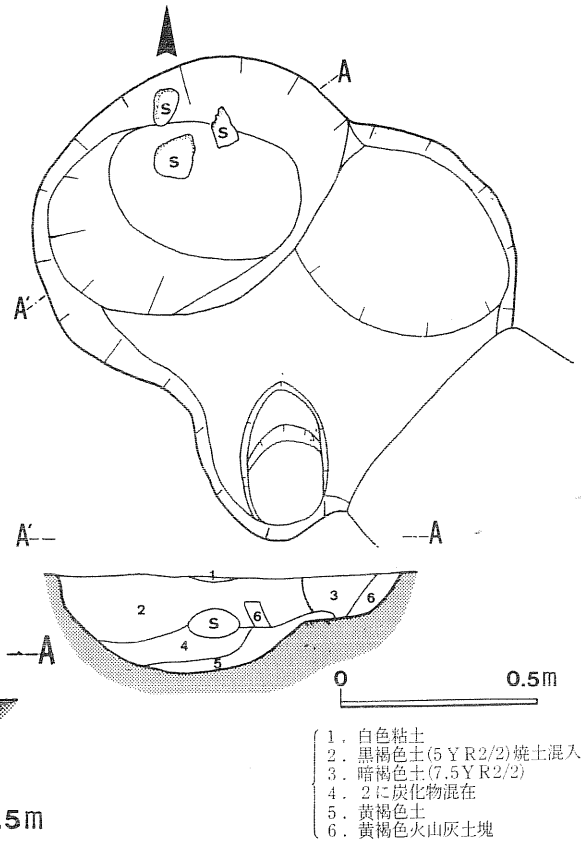
第24号土坑（ＳＫ024）

＜確認状況＞　溝跡１の東側にあり、南側が後世の攪乱をうけている。

平面形 不整円形	規模（長軸×短軸）　2 m35cm×2 m 5 cm	長軸方向　南―北
＜堆積土の状況＞　上層に焼土が混入した黒褐色土(5YR2/2)が堆積し、下に炭化物が入る。		
＜断面の状況＞　鍋底状を呈している。	確認面からの深さ（最深）　50cm	
＜壁・底面の状況＞　北側になだらかに落ち込む。		
＜出土遺物の状況＞　覆土内より土器が多量に出土。　※器種　土師器杯・甕、須恵器甕		



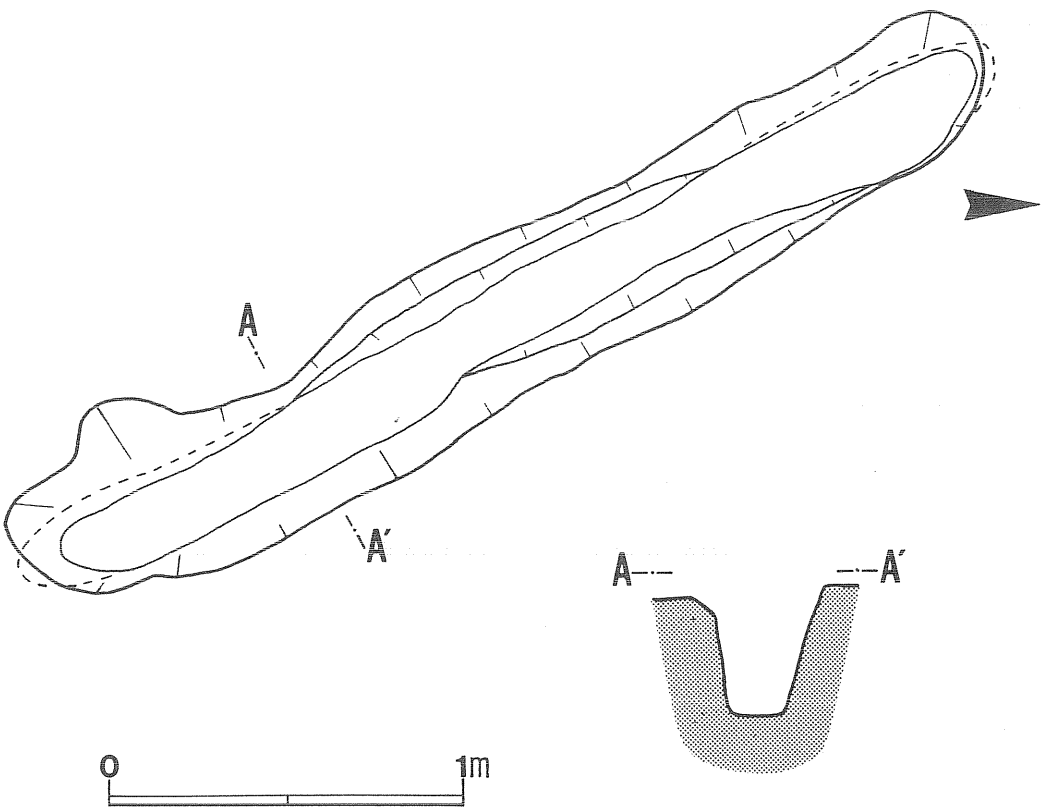
第18図　第８号土坑



第19図　第24号土坑

溝状土坑

方　向	開　口　部 長　軸×短軸(m)	底　　面 長　軸×短軸(m)	断面形状	確認面からの深さ(cm)	備　　考
南―北	3.09 × 0.47	3.13 × 0.23	ロート状	38	両側外に入り込む



第20図　溝状土坑

溝跡１～６（ＳＤ01～06）

名　称	方　　向	規　　模 長さ(m)―幅(m)	断　面 形　状	確認面からの深さ(cm)	堆積土	備　　考
溝跡１	南東―北西	28.9 ― 0.30	U字状	30	黒色土	中間で２列になる
溝跡２	南 ― 北	10.1 ― 0.20	U字状	40	黒色土	
溝跡３	東 ― 西	4.07 ― 0.33	U字状	12	黒色土	
溝跡４	東 ― 西	8.40 ― 0.41	U字状	8	黒色土	
溝跡５	東 ― 西	8.55 ― 0.20	U字状	6	黒色土	内側に小ピットある
溝跡６	東 ― 西	9.71 ― 0.15	U字状	11	黒色土	途中で切れる

Ⅳ　出土遺物について

1．Ⅰ地区出土遺物

Ⅰ地区より出土した遺物を一括してここに掲げた。土器は、各土坑内より出土したものである。実測図1・2・11は第3号土坑より、3は建物跡掘り方P14より、4は第22号土坑より、5は第23号土坑より、6・7は第33号土坑より、8は第35号土坑より、9は第6号土坑より、10は第40号土坑より出土している。

土師器杯形土器

いずれも体部がロクロ調整され、外面に調整痕が1㎜幅程の沈線となって数条残っているものがある。底部は平底で回転糸切り痕が残っている。色調は、明褐色ないし黄褐色を呈し、胎土に細砂粒が混入したものが多い。

遺物番号	計測値(cm)			色調	胎土	焼成	成形の特徴	切り離し技法	備考
	口径	底径	器高						
1(16—1)	12.4	5.0	3.4	明褐色	緻密	良	体部にやや丸味をもち、外傾	回転糸切り	
2(16—2)	16.4	7.6	5.4	灰褐色	緻密	良	体部に丸味をもち、外傾 高台は切り離し後、付けている	回転糸切り	高台付
3(16—3)	12.7	4.8	4.6	明褐色	細砂粒混	良	体部下半にふくらみをもち、外傾 体部中位1㎜幅の沈線数条残す	回転糸切り	一部赤変
4(16—4)	12.5	4.8	4.6	明褐色	細砂粒混	不良	体部中位にふくらみをもち、外傾 体部中位に1㎜幅の沈線数条残す	回転糸切り	
5(16—5)	12.0	5.6	2.6	黄褐色	緻密	不良	体部に丸味をもち、外傾 口縁部は波状を呈し、上底気味	不明	全体ゆがむ
6(16—6)	12.6	4.4	5.1	明褐色	細砂粒混	不良	体部に丸味をもち、外傾	回転糸切り	
7(16—7)	13.1	5.0	4.9	黄褐色	緻密	良	体部にやや丸味をもち、外傾 口唇部がやや突き出す	回転糸切り	
8(16—8)	12.7	5.2	4.8	赤褐色	緻密	良	体部に丸味をもち、外傾	回転糸切り	硬質
9(16—9)	(14.4)	(5.2)	5.8	明褐色	細砂粒混	不良	体部にやや丸味をもち、外傾	回転糸切り	
10(16—10)	12.8	5.1	5.6	明褐色	細砂粒混	不良	体部下半にふくらみをもち、外傾 口縁部がやや外反	回転糸切り	下半灰色

※遺物番号左は、実測図番号であり、(　) 内は、図版番号である。計測値の(　)は推定。

土師器鉢形土器

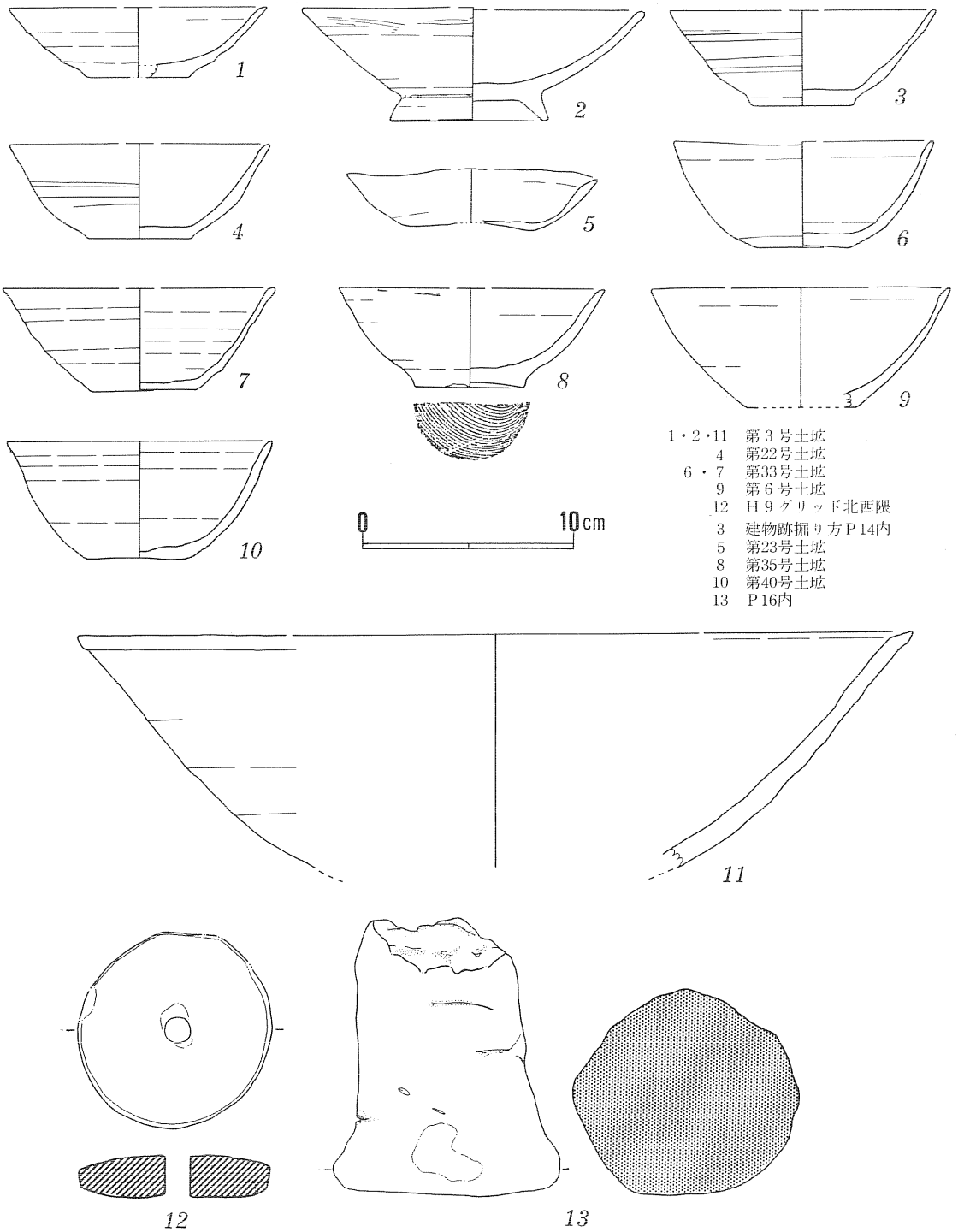
11は、第3号土坑の底面よりやや上から出土しており、口縁部が$\frac{1}{3}$程残っており、底部が欠損しているが、丸底を呈すると考えられる。口径は、推定で約40cm、現高は11.2cmである。色調は、明褐色を呈しており、胎土には、粗砂が混入している。焼成は、やや不良である。丸味をもって外傾し、口唇部が突き出している。外面にロクロ調整痕が残っている。なお外面の下半に炭化物が付着している。

土製支脚

12は、P16内より出土している。上部が欠損しており、現存する高さは、13.1cm、下部の直径10.9cm、上部の直径7.8cmの円筒形を呈し、底面は平らである。

紡錘車

13は、H9グリッドの北西隅、表土下から出土している。凝灰岩質泥岩から作られており、直径は、9.3cmで、厚さは2.0cm、中央部に直径1.2cmの孔があいている。



第21図　Ｉ地区出土遺物

2．Ⅱ地区出土遺物

Ⅱ地区より出土した遺物を一括してここに掲げた。土器は、各土坑内より出土したものである。実測図1・13は第2号土坑より、2は第8号土坑より、3～7は、第25号土坑より、8～10は第26号土坑より、11は第4号土坑より、12は第21号土坑より出土している。

土師器杯形土器

いずれも体部がロクロ調整され、底部には回転糸切り痕が残っている。色調は、赤褐色を呈し、器壁が厚く、硬質のものが多い。

遺物番号	計測値(cm)			色調	胎土	焼成	成形の特徴	切り離し技法	備考
	口径	底径	器高						
1(17—1)	(15.2)	(6.2)	6.8	明褐色	粗砂粒混	やや良	体部にやや丸味をもち、外傾	不明	黒斑あり
2(17—2)	12.0	4.2	4.6	黄灰色	細砂粒混	不良	体部下半にふくらみをもち、外傾 体部中位に1mm幅の沈線数条残す	回転糸切り	一部赤変
3(17—3)	13.2	6.8	5.3	赤褐色	緻密	良	体部中位により直線的に外傾 器壁が厚い	回転糸切り	硬質
4(17—4)	12.2	7.0	5.9	赤褐色	緻密	良	体部中位より直線的に外傾 器壁が厚い	回転糸切り	硬質 炭化物付着
5(17—5)	13.0	6.6	5.5	赤褐色	緻密	良	体部中位より直線的に外傾 器壁が厚い	回転糸切り	硬質
6(17—6)	13.0	5.8	5.2	明褐色	細砂粒混	良	体部にやや丸味をもち、外傾	回転糸切り	黒斑あり
7(17—7)	(14.8)	(7.0)	現存 6.6	赤褐色	緻密	良	体部下半にふくらみをもち、外傾 高台は切り離し後付ける	回転糸切り	高台付
8(17—8)	(15.2)	6.6	6.0	赤褐色	緻密	良	体部下半にふくらみをもち、外傾	回転糸切り	黒斑あり
9(17—9)	12.6	5.4	4.8	赤褐色	細砂粒混	良	体部下半にふくらみをもち、外傾 口縁部やや外反	回転糸切り	

※遺物番号左は、実測図番号であり、(　) 内は、図版番号である。計測値(　)は推定。

土師器甕形土器

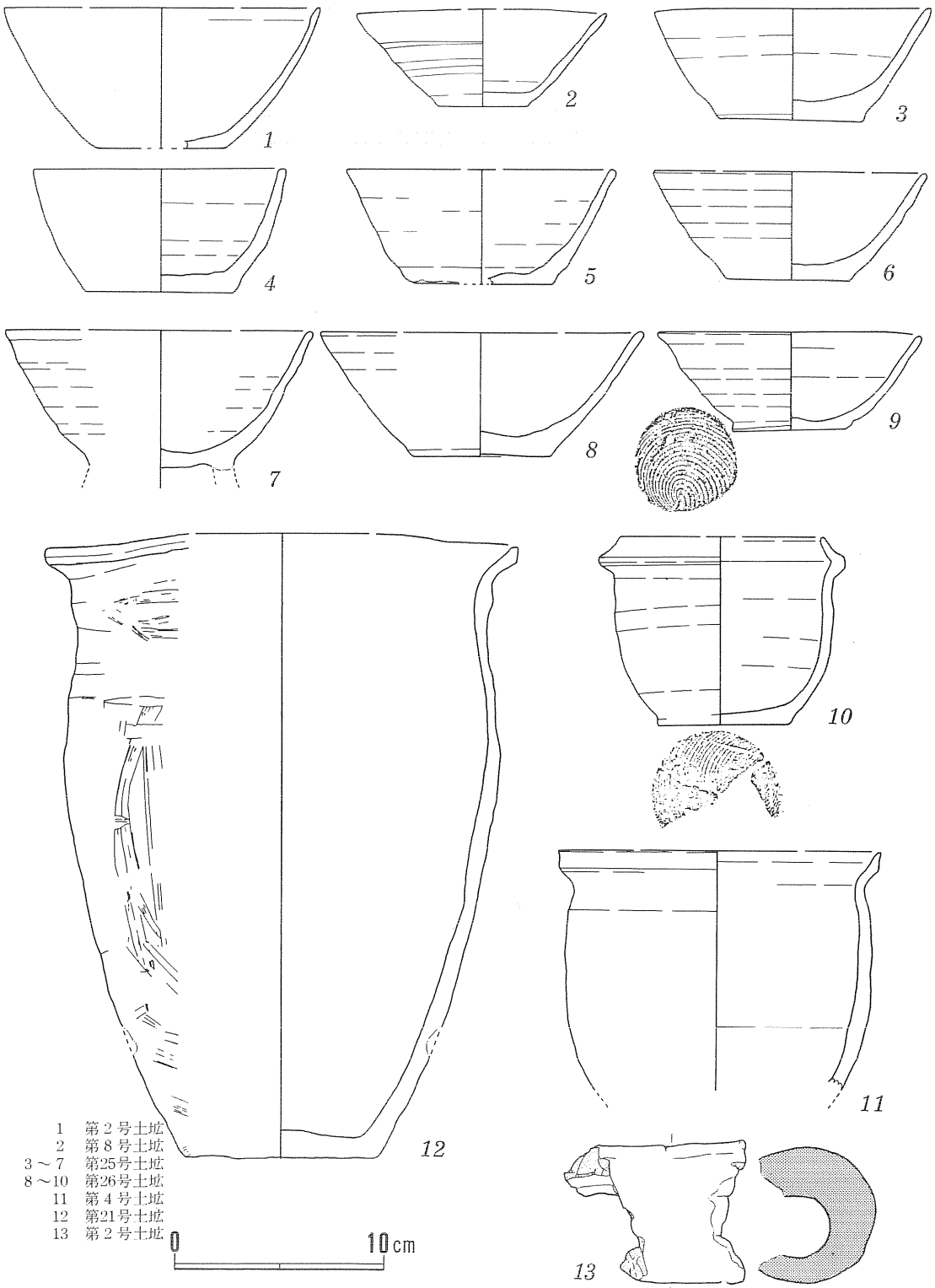
10は、底部から口縁部が$\frac{1}{3}$程欠損しており、口径9.8cm、底径6.2cm、高さ9.1cmである。色調は、赤褐色を呈し、胎土は緻密で焼成も良好である。底部よりゆるやかに立ちあがり、口縁部が短く外反し、口唇部が内側に斜めに突き出しているため、断面が「く」の字状を呈している。口縁部から胴部にかけてはロクロ調整痕が施され、底部に回転糸切り痕が残っている。なお内外面にわずかに炭化物が付着している。

11は、胴部から口縁部が$\frac{1}{4}$程残存しており、口径15.4cm、現存11.5cmである。色調は、黄褐色を呈し、胎土に細砂粒が混入しているが、焼成は良好である。頸部でわずかにくびれ、口縁部が短く外反し、口唇部がまっすぐ立ち上る。口縁部はロクロ調整が施されている。なお内外面に炭化物が付着しており、とくに口縁内側に厚く付着している。

12は、底部から胴部下半は残存状態が良好であるが、胴部上半から口縁部はわずかに接合している。口径は推定で22.8cm、底径9.2cm、高さ30.0cmである。色調は、黄褐色を呈しており、胎土に細砂粒が混入しており、焼成は良好である。底部よりゆるやかに立ち上り、頸部でややくびれ、口縁部が外反する。口唇部は丸味をもち、立ち上っている。外面の調整は、胴部上半から胴部下半にかけては縦方向に1cm幅の工具でナデ調整されており、底辺近くでは横および斜方向に工具のナデがケズリの作用をともなって施されている。胴部上半から口縁部は軽く横ナデされている。胴部内面は丁寧に指ナデされている。なお胴部上半で器壁がうすくなる。

羽口

13は、一方が欠損しており、現存する長さは8.8cm、幅6.6cmである。



第22図　Ⅱ地区出土遺物

遺構内出土土器一覧

遺構内から出土した土師器、須恵器の破片を大まかに、推定し、器形分類した。

—Ⅰ地区—　　※○は有

遺構名（土坑）	土師器杯	土師器甕	須恵器杯	須恵器甕	備考
第1号	○				少ない
第2号					なし
第3号	○	○		○	土師器鉢有
第4号	○	○		○	やや多い
第5号	○	○		○	やや多い
第6号	○				少ない
第7号	○	○		○	やや多い
第8号	○				少ない
第9号	○				少ない
第10号	○				少ない
第11号	○	○			少ない
第12号		○		○	少ない
第13号	○	○			やや多い
第14号	○	○		○	やや多い
第15号		○			やや多い
第16号					前回調査
第17号	○	○			やや多い
第18号					前回調査
第19号	○	○			少ない
第20号	○	○		○	やや多い
第21号	○	○			やや多い
第22号	○	○		○	多量
第23号	○	○		○	多量
第24号	○	○	○	○	多量
第25号					前回調査
第26号					前回調査
第27号	○	○	○		少ない
第28号	○	○		○	やや多い
第29号		○			少ない
第30号					なし
第31号	○	○		○	やや多い
第32号					なし
第33号	○	○		○	多量
第34号	○				杯多量
第35号	○	○		○	やや多い
第36号	○	○			やや多い
第37号					なし
第38号	○	○			やや多い
第39号	○				少ない
第40号	○	○		○	やや多い
第41号	○	○		○	多量
第42号					なし

第43～45号土拡は省略

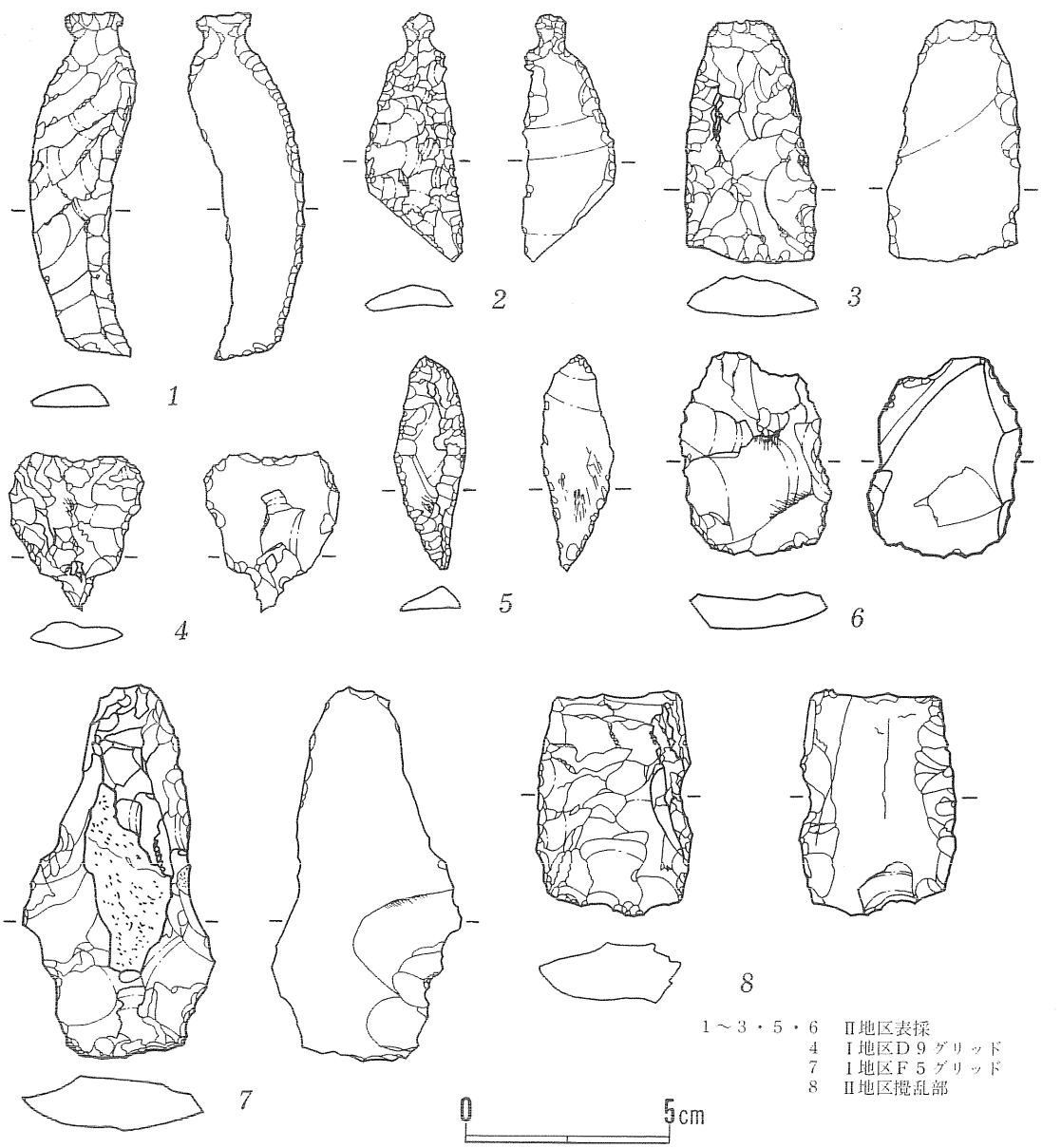
—Ⅱ地区—　　※○は有

遺構名	土師器杯	土師器甕	須恵器杯	須恵器甕	備考
第1号					なし
第2号	○	○			多量
第3号					なし
第4号	○	○		○	杯多量
第5号					なし
第6号		○			少ない
第7号	○	○			少ない
第8号	○	○			杯2
第9号					なし
第10号		○			やや多い
第21号	○	○		○	多量
第22号	○	○		○	多量
第23号					なし
第24号	○	○		○	多量
第25号	○				杯完形2
第26号	○	○			多量
溝跡1	○	○		○	多量

第11～20号土拡は遺物なし

3．Ⅰ・Ⅱ地区出土石器

実測図No.	名称	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	実測図No.	名称	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)
1	石匙	頁岩	8.5	2.2	0.5	5		頁岩	5.3	1.7	0.5
2	石匙	頁岩	6.2	2.1	0.5	6	剥片	頁岩	5.0	3.4	0.8
3	石篦	頁岩	6.0	3.2	0.9	7	石篦	頁岩	9.2	4.3	1.3
4	石錐	頁岩	3.4	3.4	0.6	8	石篦	頁岩	5.6	3.8	1.2



1～3・5・6　Ⅱ地区表採
4　Ⅰ地区Ｄ９グリッド
7　Ⅰ地区Ｆ５グリッド
8　Ⅱ地区攪乱部

第23図　Ⅰ・Ⅱ地区出土石器

Ⅴ　ま　と　め

Ⅰ地区の建物跡と土坑群について

○昭和50年度の予備調査によって、微高地の東南縁際に、焼土と多量の赤褐色土師器をともなう土坑が検出され、宮の前遺跡の性格として、赤褐色土師器を焼成した窯跡群が推定されたが、今回の調査では、大溝跡で区切られた南側地区の中央部に、南北棟５間３間で東廂をもつ建物跡が検出され、この建物跡を中心として土坑群の存在が考えられた。

○土坑は、ほぼ円形を呈しており、規模は、径１ｍから３ｍまでのもので、断面が、浅い皿状を呈するものとやや深い鍋底状を呈するものとがある。堆積土上面を焼土が覆うものがあり、出土遺物の量がかなり多い。土坑内から出土する遺物は、大部分が明褐色ないし赤褐色を呈する土師器杯・甕であり、内外がロクロ調整されている。

○土坑は、建物を中心に南部、西部、中央部、東北部と群別に分けられる。南側には、径 1.5ｍ前後の浅い皿状の土坑が多く、出土遺物が少ない。西部は、径２ｍ以上で規模が大きく、掘り込みの深い土坑が、重復したり、接したりして存在し、出土遺物が比較的多い。中央部は、建物跡の東廂側に沿って、径1.5ｍ前後の浅い皿状の土坑が多く、上面に焼土が浮いており、出土遺物も比較的多い。東北部は、土坑が散らばっており、径１ｍ前後の小規模で皿状の浅いものが多い。焼土をともなう土坑が多く、出土遺物もかなり多い。

○建物跡の掘り方で西部と中央部の土坑が掘り込まれているが、建物跡と土坑の年代は、大きな隔りはなく、出土遺物から平安時代末（11Ｃ後半から12Ｃ初め）頃と推定される。

Ⅱ地区の遺構について

○Ⅱ地区では全面にわたって精査ができず、十分な把握ができなかった。縄文時代の石器も多く表採されているが、Ⅰ地区と同様に明褐色ないし赤褐色を呈する土師器杯・甕が出土する土坑が多く、それに溝跡、小穴群が検出された。

○小穴は径20cm前後であり、中央部では、土坑群を囲むような配列もあり、柱穴と考えられるものもある。

遺跡範囲確認調査の経過から南側を中心に遺跡の範囲を考えたが、北側部分まで広範囲に遺構が存在しており、前回の調査方針について問題が残る。担当者として今後の反省材料としたい。

発掘調査風景

図版 1

Ⅰ地区遺跡全景

大溝跡（西→東）

大溝跡の断面

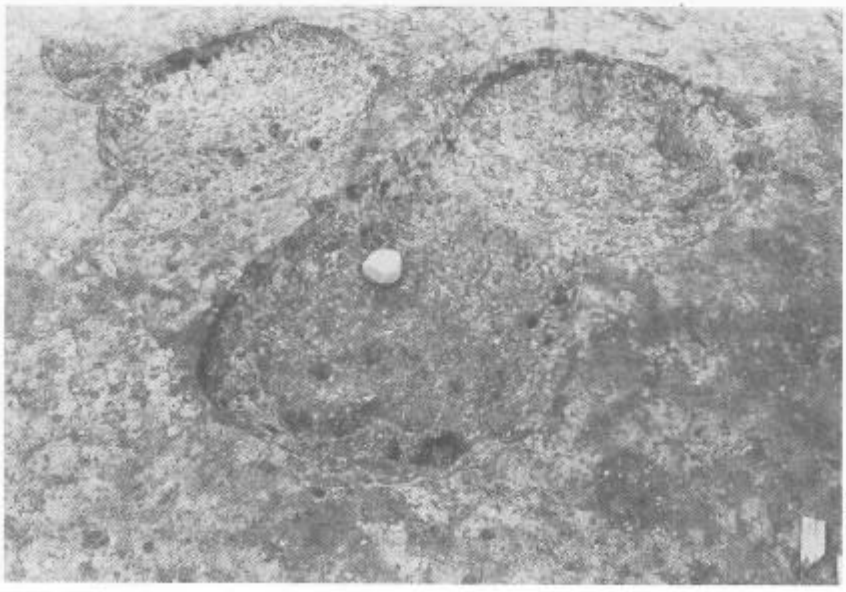
図版 2

中央部近景

西部土坑群近景

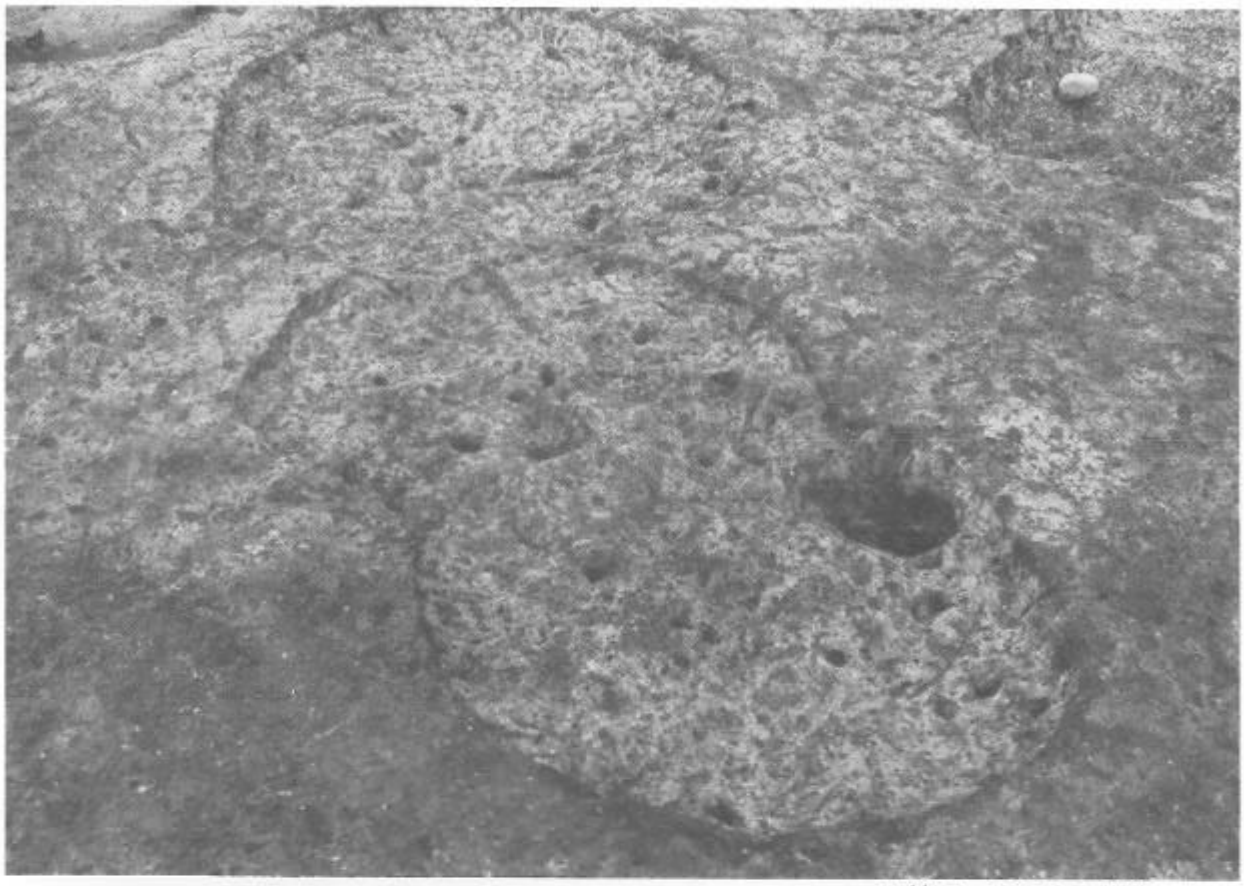
図版 3

南東部土坑群



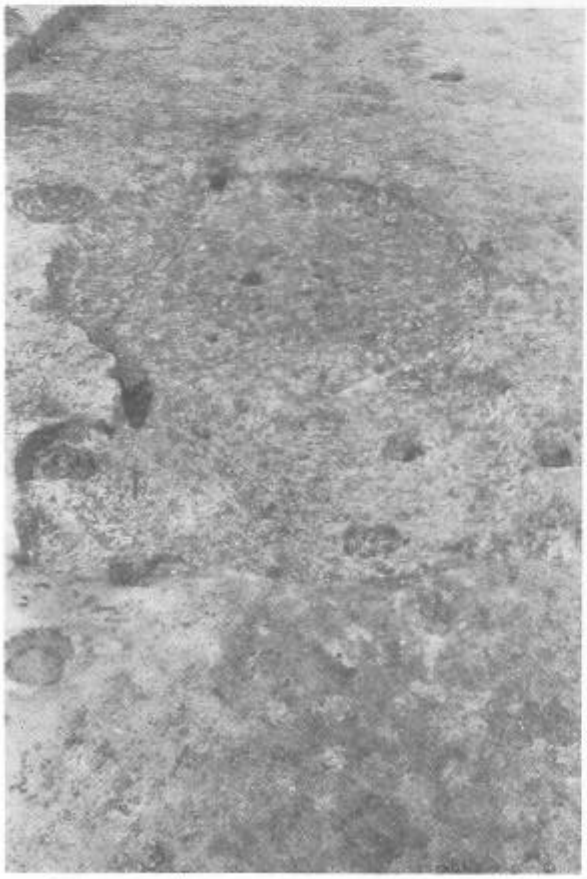
第10号・第14号
第13号　土坑

図版 4 ―Ⅰ地区―



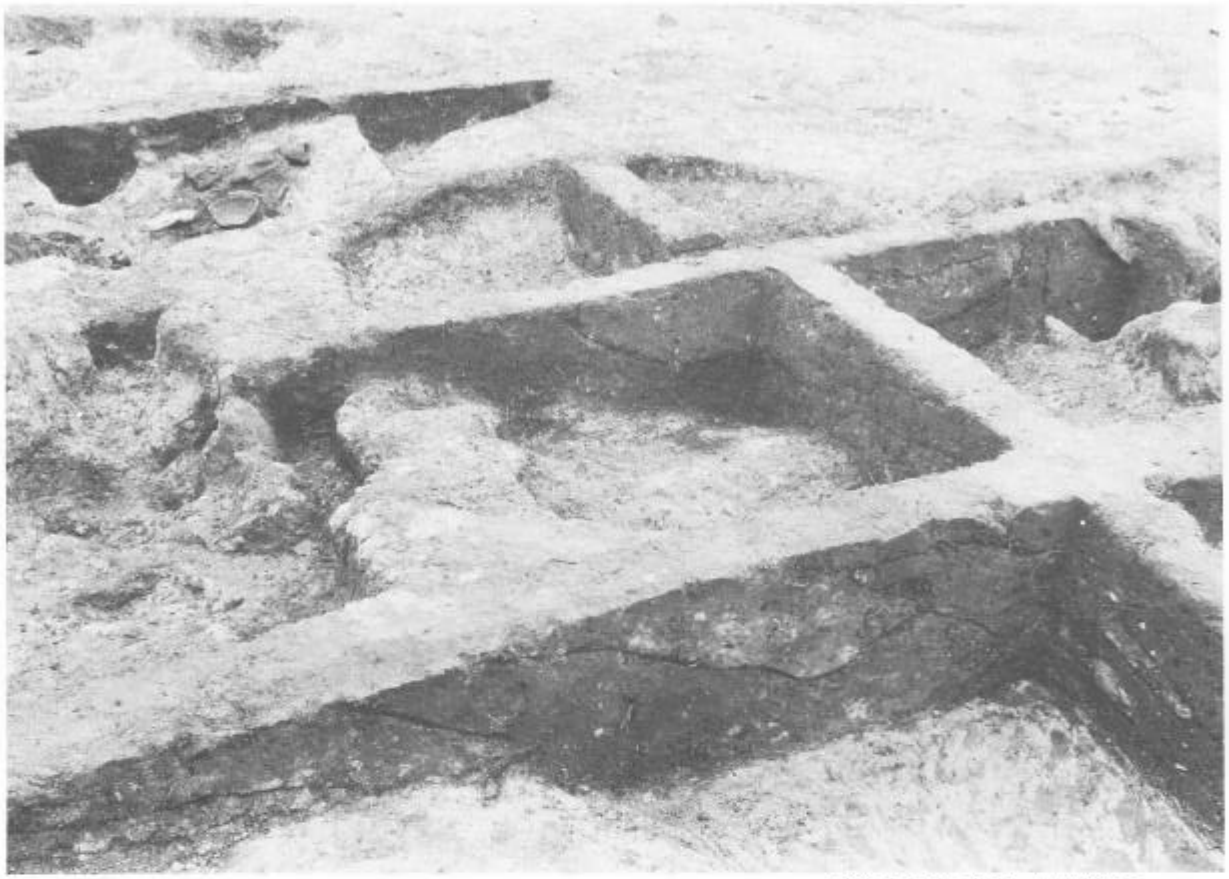
▲第 9・12・11号土坑

▼第22(上)・41(下)号土坑



第34(上)・30(下)号土坑

図版 5 —Ⅰ地区—



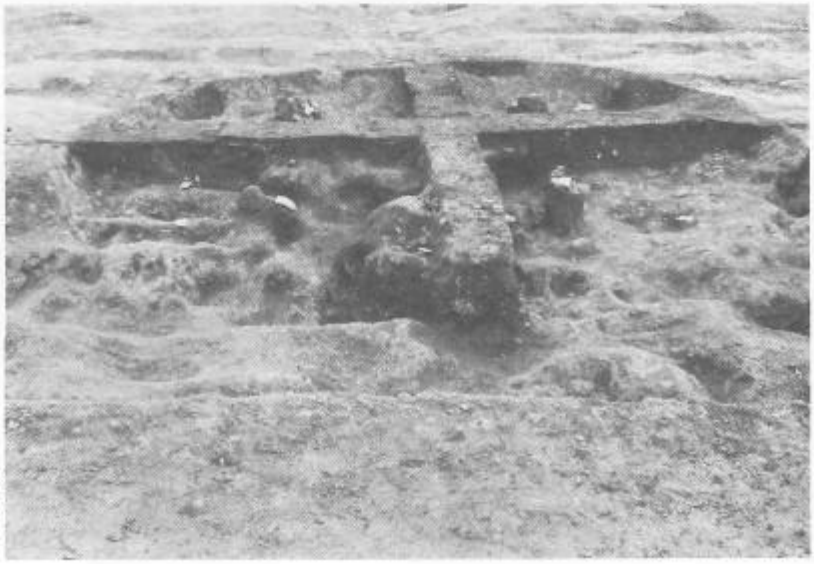
第21・23・40号土坑断面

第21・23・40号・第19号土坑

図版 6 —Ⅰ地区—

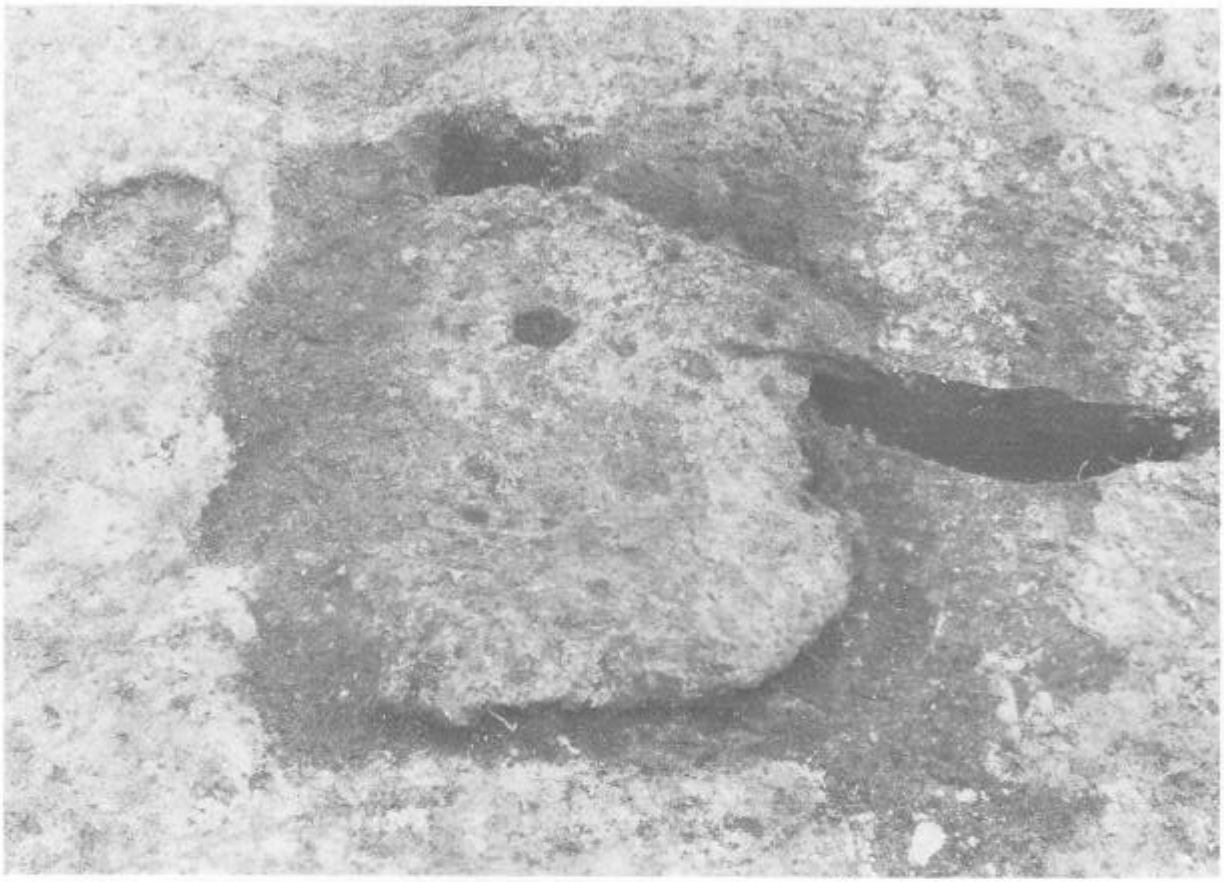
第 3 号土坑
断面

第21号土坑
P_8 断面



第24号土坑
断面

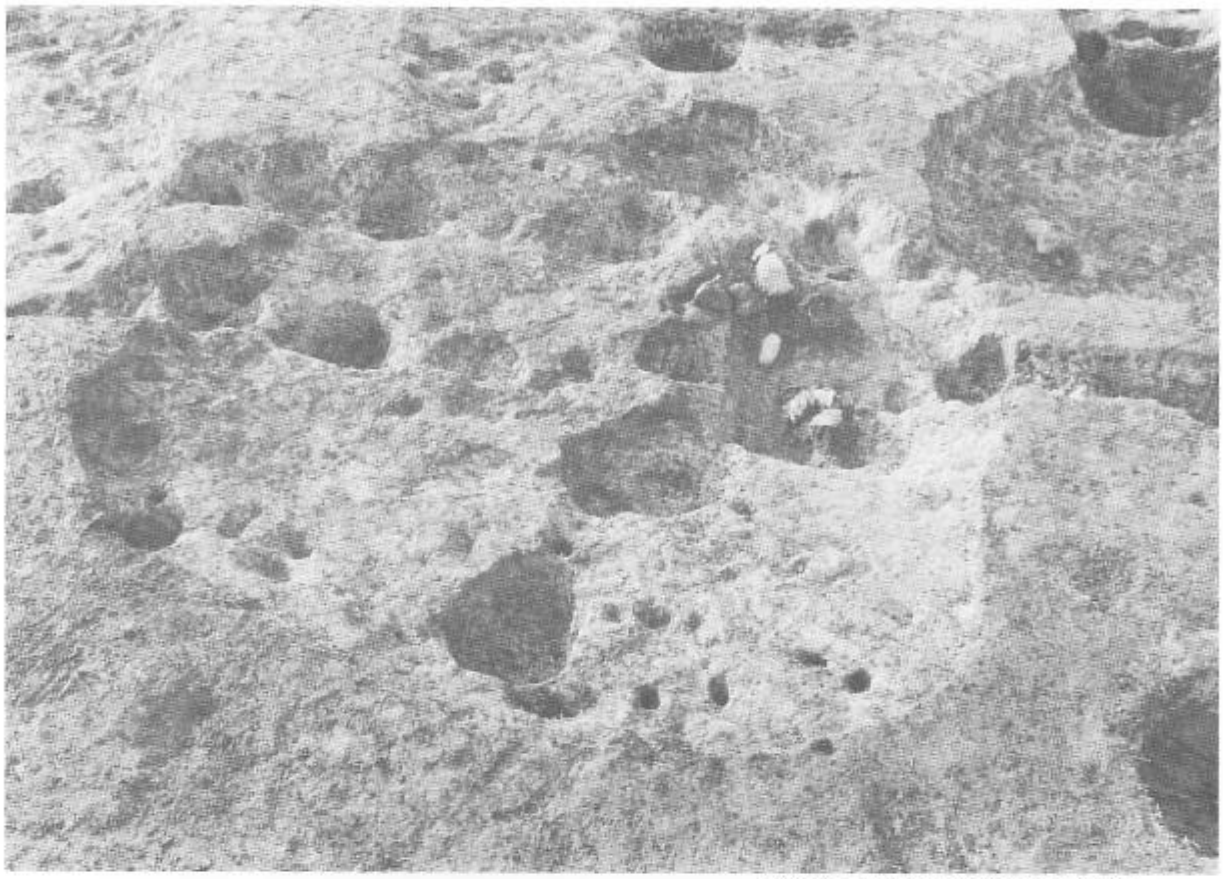
図版 7 —Ⅰ地区—



第３号土坑を覆う焼土

第３号土坑

図版８ ―Ⅰ地区―



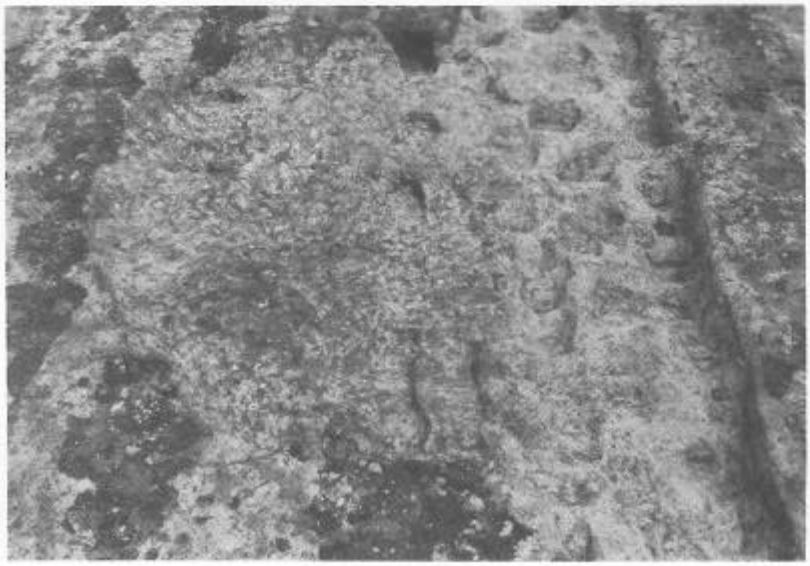
第20号土坑の遺物出土状況

第34号土坑の遺物出土状況

図版 9 —Ⅰ地区—

第24号土坑

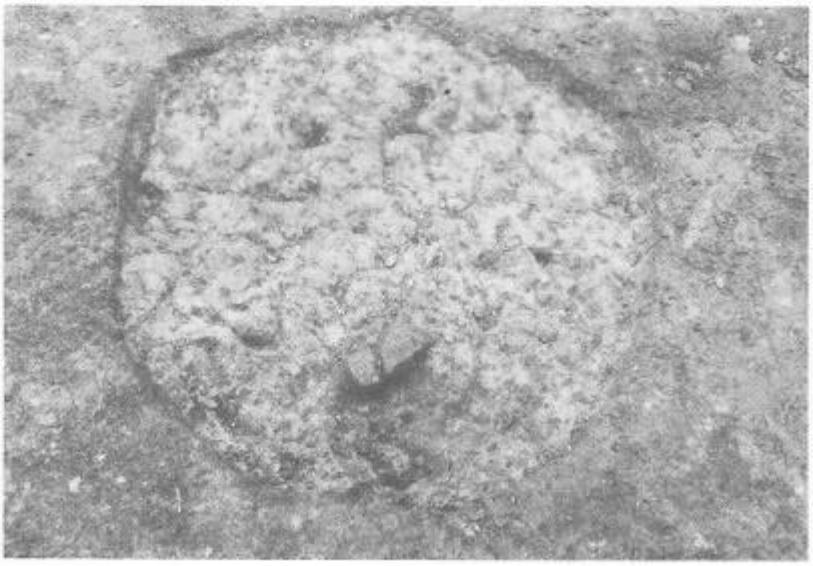
遺物出土状況



図版10 —Ⅰ地区—

第31号土坑

第33号土坑



第35号土坑

図版11 —Ⅰ地区—

Ⅱ地区北東部近景

第４号土坑

図版12 ―Ⅱ地区―

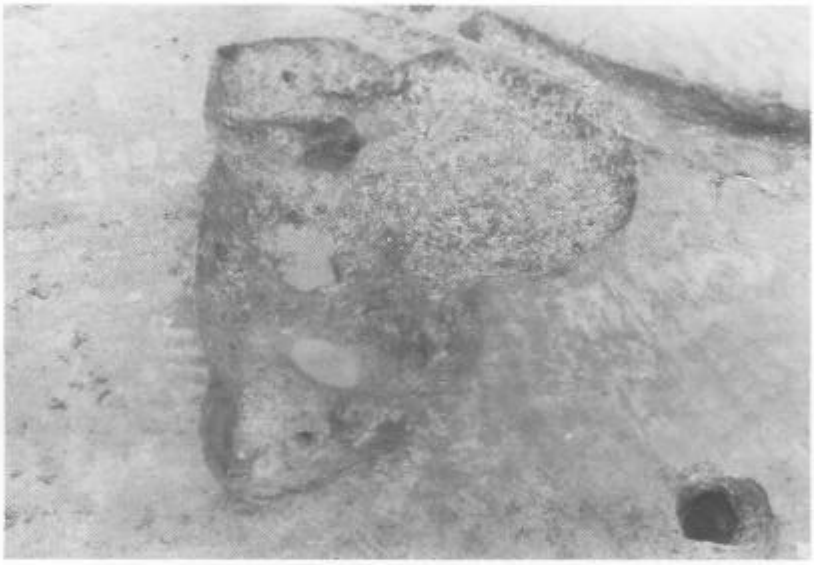
第８号土坑

ピット１

第26号土坑

図版13 —Ⅱ地区—

第 2 号土坑



第 7 号土坑

第10号土坑

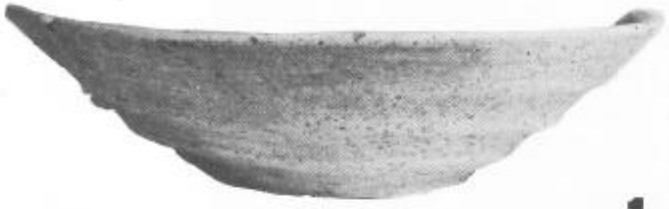
図版14 —Ⅱ地区—

第10号土坑

第24号土坑

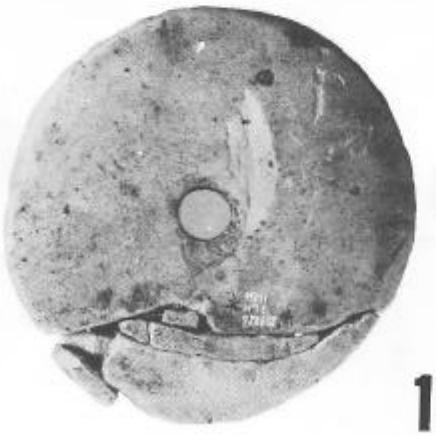
第19号土坑

図版15 —Ⅱ地区—



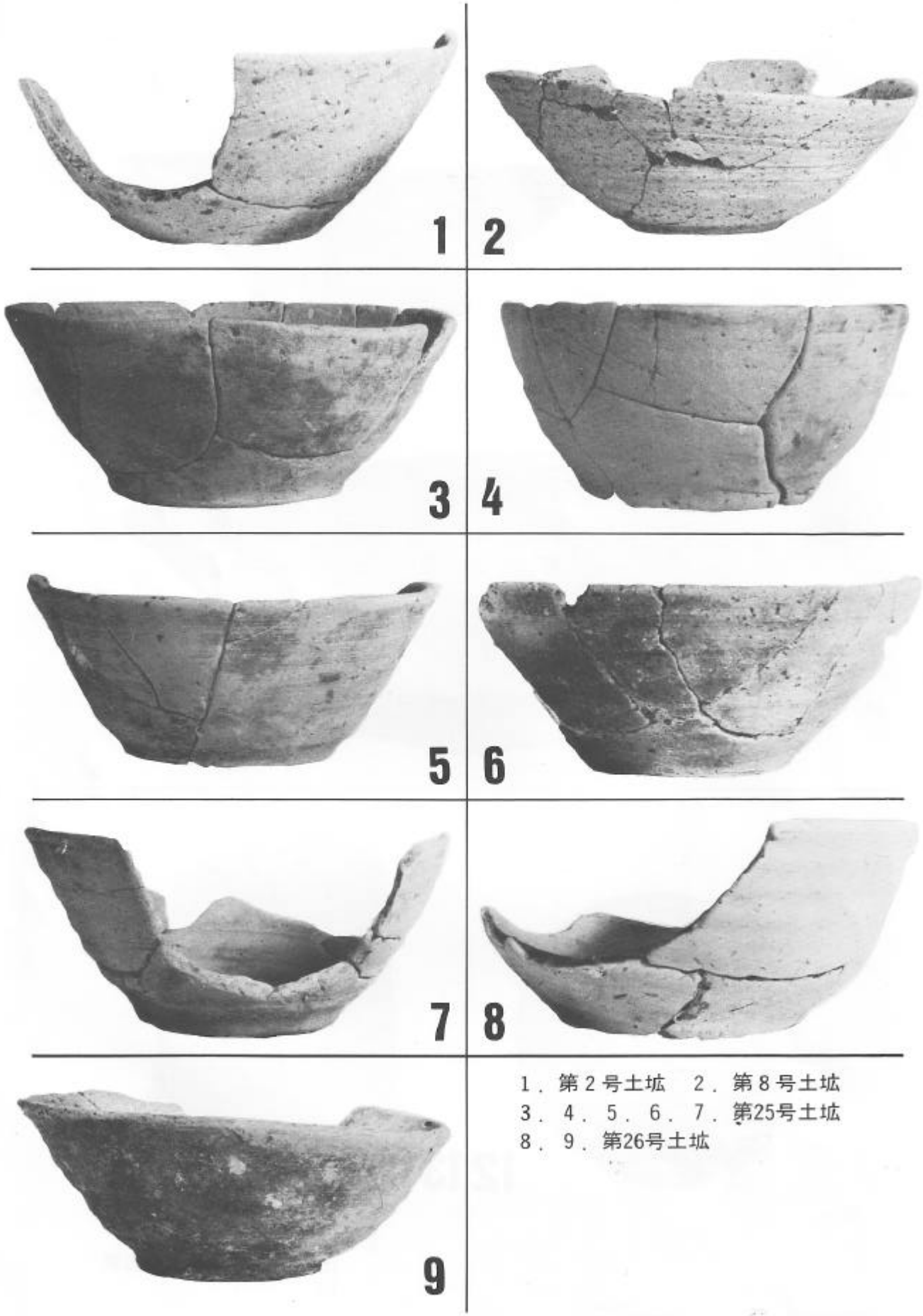
1．第３号土坑　3．建物跡掘り方Ｐ14内
4．第22号土坑　5．第23号土坑
6．第33号土坑　7．第33号土坑
8．第35号土坑　9．第６号土坑
10．第40号土坑

図版16　Ｉ地区出土遺物（１）



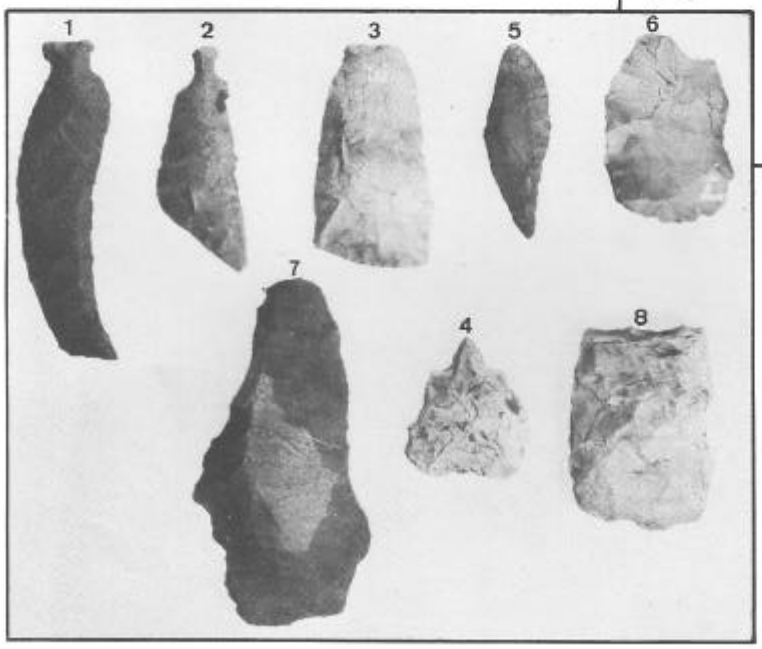
2・11. 第3号土坑
12. H9グリッド北西隅
13. P16内

図版17 I地区出土遺物（2）



1．第２号土坑　2．第８号土坑
3．4．5．6．7．第25号土坑
8．9．第26号土坑

図版18　Ⅱ地区出土遺物（１）



10．第26号土坑
11．第４号土坑
12．第21号土坑
13．第２号土坑

図版19　Ⅱ地区出土遺物（２）
Ⅰ・Ⅱ地区出土石器